

令和5年度原子力発電施設広聴・広報等事業
(放射性廃棄物に関する理解促進・支援事業)

事業報告書

1. 事業目的

原子力発電に伴い生じる高レベル放射性廃棄物については、2000年に成立した「特定放射性廃棄物の最終処分に関する法律」（最終処分法）に基づき、地表から300m以上深い安定した地層に処分（最終処分）することとしている。

2015年5月に最終処分法に基づく基本方針（閣議決定）を改定、国が科学的有望地を提示するなど前面に立って取り組むこととして、また2017年には「科学的特性マップ」を公表し、今日に至るまで全国において様々な情報提供等を実施したところである。

また、2020年11月に北海道寿都町及び神恵内村において文献調査が開始されることとなったところ、引き続き、地域のご理解とご協力を得ながら、全国のできるだけ多くの地域で、最終処分事業に関心を持っていただき、文献調査を受け入れていただけるよう取り組んでいくことが重要である。

こうした状況を踏まえ、最終処分への国民・地域の理解をより深めることを目的として、本事業では、一般住民と直接対応されている自治体職員（各都道府県及び市町村の放射性廃棄物の担当）の方々への情報提供や意見交換会の開催、各種交流会の開催、各世代に即した理解活動促進事業および最終処分に関する情報提供等を行う。

2. 事業概要

放射性廃棄物の最終処分に関する理解促進のため、意見交換会・交流会等を以下のとおり実施した。

自治体職員向け意見交換会は経済産業局の所管地域ごとに1回ずつオンラインにて開催した。（東北・関東ブロック、中部・北陸・近畿ブロック、中国・四国ブロック、九州・沖縄ブロック、北海道ブロック）

次世代層への理解促進事業として、大学等での講演を5回実施し、246名の聴講者、大学祭での地層処分事業に関するイベントを5回実施し、延べ2,214名の参加者を集めた。また、次世代層を主とした対象として、著名人、有識者、高校生などが登壇するシンポジウムを1回開催し、メディアを活用した広報を実施した。

多様な意見を持つ方々（地層処分事業に関して推進派・慎重派の有識者）を対象に3回の会議を実施した。

一般国民向けの理解促進としては、中立の立場のファシリテーターを活用し、2回意見交換会を実施した。

若年層への理解促進では、福島県浜通りの高校生6名、北海道寿都町の高校生2名、青森県六ヶ所村の高校生2名、茨城県東海村の高校生1名、福井県福井市の高校生2名、計13名にて、国内の原子力関連施設及び地層処分事業の先進地であるスウェーデン視察を行い、地層処分事業をはじめとする原子力の諸課題について若年層の理解促進を行った。

3. 実施概要

(1) 自治体職員の連絡先管理と交流会（情報提供と意見交換）の開催

①メール配信による情報提供

全自治体約 2,000 件（福島県除く）に対して、自治体説明会の開催案内等について一斉配信のほか、都道府県単位での一斉配信を行った。また、担当者の変更などに対応し、メーリングリストの管理を行った。

配信日	案件	件名	対象県
2023/6/1	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	広島県
2023/6/1	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	茨城県
2023/6/1	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	山梨県
2023/6/1	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	福井県
2023/6/1	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	高知県
2023/6/1	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	山形県
2023/8/9	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	岩手県
2023/8/9	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	京都府
2023/8/9	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	香川県
2023/8/9	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	岡山県
2023/10/12	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	神奈川県
2023/10/12	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	大阪府
2023/10/12	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	佐賀県
2023/12/7	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	長崎県
2023/12/7	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	鹿児島県
2023/12/7	対話型全国説明会	【ご連絡】高レベル放射性廃棄物の最終処分に関する対話型全国説明会の開催について	千葉県
2024/1/17	自治体説明会	【開催案内】高レベル放射性廃棄物の最終処分に係る取組に関する自治体説明会の開催について	北海道ブロック
2024/1/17	自治体説明会	【開催案内】高レベル放射性廃棄物の最終処分に係る取組に関する自治体説明会の開催について	東北ブロック
2024/1/17	自治体説明会	【開催案内】高レベル放射性廃棄物の最終処分に係る取組に関する自治体説明会の開催について	関東ブロック
2024/1/17	自治体説明会	【開催案内】高レベル放射性廃棄物の最終処分に係る取組に関する自治体説明会の開催について	中部ブロック
2024/1/17	自治体説明会	【開催案内】高レベル放射性廃棄物の最終処分に係る取組に関する自治体説明会の開催について	北陸ブロック
2024/1/17	自治体説明会	【開催案内】高レベル放射性廃棄物の最終処分に係る取組に関する自治体説明会の開催について	近畿ブロック
2024/1/17	自治体説明会	【開催案内】高レベル放射性廃棄物の最終処分に係る取組に関する自治体説明会の開催について	中国ブロック
2024/1/17	自治体説明会	【開催案内】高レベル放射性廃棄物の最終処分に係る取組に関する自治体説明会の開催について	四国ブロック
2024/1/17	自治体説明会	【開催案内】高レベル放射性廃棄物の最終処分に係る取組に関する自治体説明会の開催について	九州ブロック
2024/1/17	自治体説明会	【開催案内】高レベル放射性廃棄物の最終処分に係る取組に関する自治体説明会の開催について	沖縄ブロック
2024/3/20	自治体担当者変更	高レベル放射性廃棄物の最終処分に係るご担当者様の登録変更について	全登録自治体

②自治体職員向け情報提供の実施

放射性廃棄物の最終処分に関する理解促進のため、①資料映像の視聴、②国・NUMOによる情報提供、③質疑応答それぞれについて自治体職員等を対象として意見交換会を開催した。

開催にあたっては、オンライン形式（You Tube Live）にて以下の通り 5 回実施した。

- 東北・関東ブロック : 2024 年 1 月 30 日（火）
- 中部・北陸・近畿ブロック : 2024 年 2 月 1 日（木）
- 中国・四国ブロック : 2024 年 2 月 7 日（水）
- 九州・沖縄ブロック : 2024 年 2 月 9 日（金）
- 北海道ブロック : 2024 年 2 月 13 日（火）

(2) 多様な意見を持つ方々との交流会の開催

地層処分事業等に関する立場の違う有識者により、共有できる事実や地層処分事業に関する論点などの洗い出しを実施。それぞれの論点に関する見解や他有識者による情報提供などを実施しながら、論点の整理を行った。また、地層処分事業について知識のない方でも、様々な論点が分かりやすくなるような資料の検討を実施した。

第一回事務局会議

日時：2023年7月5日（水）15：30～17：30

形式：対面及びWEBでのハイブリッド開催

参加：10名

議題：寿都・神恵内の近況、情報提供（文献調査段階の評価の考え方（案）について）、資料の拡充に向けた意見交換

第二回事務局会議

日時：2023年11月9日（木）15：00～17:00

形式：対面及びWEBでのハイブリッド開催

参加：9名

議題：寿都・神恵内の近況、今後の活動の方向性、資料の拡充に向けた意見交換

第三回事務局会議

日時：2024年3月6日（水）15:30～17:30

形式：対面及びWEBでのハイブリッド開催

参加：10名

議題：情報提供等について（シンポジウム等）、
文献調査報告書案について、
意見交換

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

① 次世代層主体によるイベント等の実施（最終処分の認知向上）

地層処分事業は長期間に渡る事業であり、次世代層の理解促進が重要であるが、10代後半から20代前半の若者は本課題について、無関心であることが多い。その為、本事業では、現在の国際的な共通認識は「地層処分」であることの認知拡大、理解促進を学生と共に検討し、「知る・考え始めるキッカケ」を創っていくことを目的として、次世代を担う方々が多く集う大学祭等への出店を行い、広報を実施した。

第1回 東京都市大学プロジェクト①（横浜キャンパス）

日 程：2023年9月17日（日）～9月18日（月）

場 所：東京都市大学横浜キャンパス 3号館2階 321号室

参加者：448人来場

内 容：ベントナイトバスボム実験、自転車発電体験、エネルギートークカフェ

第2回 福井工業大学プロジェクト（福井工業大学キャンパス）

日 程：2023年10月7日（土）～10月8日（日）

場 所：福井工業大学 アクティブラーニングスペース

参加者：272名来場

内 容：ベントナイトバスボム実験、パネル展示

第3回 岡山大学プロジェクト（岡山大学キャンパス）

日 程：2023年11月3日（金・祝）～4日（土）

場 所：岡山大学 津島キャンパス 一般教養棟 A35 教室

参加者：406名来場

内 容：ベントナイトバスボム実験、パネル展示、ベントナイト実験（NUMO）

第4回 東京都市大学プロジェクト②（世田谷キャンパス）

日 程：2023年11月4日（土）～5日（日）

場 所：東京都市大学 世田谷キャンパス 13A 教室

参加者：357名来場

内 容：ベントナイトバスボム実験

第5回 東京大学プロジェクト（駒場キャンパス）

日 程：2023年11月24日（金）～26日（日）

場 所：東京大学 駒場キャンパス 1号館 105室

参加者：731名 来場

内 容：自転車発電体験

情報発信ツールとして、公式インスタグラムを新たに作成し、地層処分事業の周知活動として、大学祭イベント等での活動について、告知、結果報告を行った。

② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

最終処分に関する認知を高めるため、大学等の授業において、エネ庁職員及びNUMO職員の出前授業を5回行った。

【実施大学名】山口大学

実施日：2023年11月2日（木）

会場：教育学部C棟2F 21番教室

形式：講義型授業

団体名：教育学部（重松 宏武教授／副学長補佐・地域連携担当）

科目：理科教育法Ⅱ「高レベル放射性廃棄物の地層処分を学ぶ」

講演者：丹 貴義氏（資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課 課長補佐）

テーマ：「エネルギーを巡る状況と高レベル放射性廃棄物の地層処分について」

専門家：小川 彩氏（NUMO広報部教育支援グループ）

テーマ：「高レベル放射性廃棄物の地層処分について」

参加者数：57名

【実施大学名】慶応義塾大学

実施日：2023年11月13日（月）

会場：湘南藤沢キャンパス オメガ館 21番教室

形式：講義型授業

団体名：総合政策学部／環境情報学部（和泉 龍彦教授）

科目：財政政策（国家）の一環としての高レベル放射性廃棄物の地層処分

講演者：丹 貴義氏（資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課 課長補佐）

テーマ：「エネルギーを巡る状況と高レベル放射性廃棄物の地層処分について」

参加者数：46名

【実施大学名】淑徳大学

実施日：2023年11月30日（木）

会場：埼玉キャンパス1号館 1-211大講堂

形式：講義型授業

団体名：経営学部観光経営学科（千葉 千枝子教授／経営学部長）

科目：パブリック・リレーションズの一環として、地層処分を学ぶ

講演者：丹 貴義氏（資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課 課長補佐）

テーマ：「エネルギーを巡る状況と高レベル放射性廃棄物の地層処分について」

専門家：森 沙紀氏（NUMO広報部教育支援グループ）

テーマ：「高レベル放射性廃棄物の地層処分について」

参加者数：86名

【実施大学名】東邦大学

実施日：2023年12月9日（土）

会場：習志野キャンパス 理学部V号館 5106 教室

形式：講義型授業

団体名：理学部（畑中 敏伸教授）

科目：理科教職課程における高レベル放射性廃棄物の地層処分の扱いについて

講演者：丹 貴義氏（資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課 課長補佐）

テーマ：「エネルギーを巡る状況と高レベル放射性廃棄物の地層処分について」

専門家：実松 由紀氏（NUMO広報部教育支援グループ 課長代理）

テーマ：「高レベル放射性廃棄物の地層処分について」

参加者数：41名

【実施大学名】佐賀大学

実施日：2023年12月22日（金）

会場：本庄キャンパス理工学部大学院棟2階 201 講義室

形式：講義型授業

団体名：理工学部理工学科機械エネルギー工学コース（光武 雄一教授）

科目：資源エネルギー概論

講演者：丹 貴義氏（資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課 課長補佐）

テーマ：「エネルギーを巡る状況と高レベル放射性廃棄物の地層処分について」

専門家：志賀 有美氏（NUMO広報部教育支援グループ）

テーマ：「高レベル放射性廃棄物の地層処分について」

参加者数：16名

③ 地域での次世代層向け理解活動の企画の実施（最終処分の理解促進）

日常生活で、エネルギー問題に触れる機会の少ない学生や女性層も参加しやすい「エニアグラムセミナー」を実施し、セミナーのワークショップで利用する「時事ネタ」として地層処分事業の情報提供を行い、率直な意見交換を行った。また、実施においては、中立な立場のファシリテーターを活用し、意見交換時の場を活性化するとともに、発言の取りまとめを支援した。

◆実施概要

≪第一回≫

日 程：2023年11月25日（土）13:00～16:00

会 場：株式会社リファレンス はかた近代ビル 103 会議室

行 事 名：エニアグラムセミナー

講 師：日本エニアグラム学会 認定ファシリテーター

電源地域振興センター 河田朱実

ファシリテーター：3名（岡本明子、漆田義孝、高木利恵子）

情報提供：資源エネルギー庁 放射性廃棄物対策課 課長補佐 丹貴義

「我が国のエネルギーを巡る現状について」

参加者：10名

形 式：3島（1島にテーブルファシ1名+参加者数名を配置）

≪第二回≫

日 程：2024年1月27日（土）13:00～16:00

会 場：名古屋サンスカイルーム E室

行 事 名：エニアグラムセミナー

講 師：日本エニアグラム学会 認定ファシリテーター

電源地域振興センター 河田朱実

ファシリテーター：4名（岡本明子、漆田義孝、高木利恵子、桶谷治寛）

情報提供：資源エネルギー庁 放射性廃棄物対策課 課長補佐 丹貴義

「我が国のエネルギーを巡る現状について」

参加者：12名

形 式：4島（1島にテーブルファシ1名+参加者数名を配置）

④ 最終処分理解促進のためのシンポジウムの実施

効果的な理解促進を図るための企画（シンポジウム）を実施した。

イベント等を実施する際に、実施に必要な人員、配布資料の印刷、物品・機材、運営マニュアル等を整備し実施した。なお実施にあたっては、事前告知、事前広告、事後採録を行い、広く国民とりわけ次世代層に向けた情報発信を行った。

◆実施概要

開催名 : 大切なエネルギーと紡ぐ私たちの未来
～どこかの誰かだけの問題じゃない地層処分～
日時 : 2024年2月21日(水) 14:00～17:00
場所 : ウィンクあいち(愛知県産業労働センター) 大ホール
主催 : 経済産業省 資源エネルギー庁
事務局 : 一般財団法人 電源地域振興センター
協力企業 : 株式会社読売エージェンシー(再委託先)
参加者数 : 207名(内訳: 来場者62名、オンライン参加者65名)

◆実施内容

①開会挨拶(ビデオメッセージ)

: 経済産業大臣政務官 石井 拓

②地層処分の概要

: 資源エネルギー庁電力・ガス事業部
放射性廃棄物対策課長 下堀 友数

③パネルディスカッション 14:20～15:40

テーマ : 「将来にわたって地層処分に関心を寄せてもらうには」

コーディネーター: 石川 和男 (政策アナリスト)

パネラー : 萱野 稔人 (津田塾大学総合政策学部教授)

: 辻 愛沙子 ((株)arca 代表、クリエイティブディレクター)

: 大空 幸星 (NPO 法人あなたのいばしょ 理事長)

: 山内 ともな (モデル・タレント)

④トークセッション 15:50～17:00

テーマ : 「高校生から見た地層処分～スウェーデン取材報告～」

コーディネーター: 石川 和男 (政策アナリスト)

ゲスト : 山内 ともな (モデル・タレント)

高校生登壇者 : 福島県立 原町高等学校 大井 紀葉

: 福島県立 磐城桜が丘高等学校 太田 諒

: 福島県立 磐城桜が丘高等学校 岡田 瑠衣

: 福島県立 相馬高等学校 伊東 聡太

: 北海道 寿都高等学校 中山 凌空

◆広報

参加募集を行うために、事前告知を実施した。

また、開催後、採録記事掲載を実施した。

読売新聞全国版朝夕刊月極掲載（2024年1月23日～2月12日）

読売新聞全国版朝夕刊月極掲載
#みんなで作るシンポジウム

大切なエネルギーと紡ぐ 私たちの未来
～どこかの誰かだけの問題じゃない地層処分～

2024年 **2月21日**（水） **ウイングあいち 2F大ホール**
14:00～17:00（13:15開場）（参加費 490円（税別））

参加無料（※200名）

プログラム
【第一部】14:00～
●開会の挨拶
●質疑応答の時間 【下野大副 読売エネルギー情報制作局長特別講演】
●付録「アースリフト」の活用
【第二部】14:00～17:00
●「アースリフト」の活用
●「アースリフト」の活用

パネリスト
石川 尚也、宮野 裕人、江 美穂、大宮 幸恵、山内 ともな

お申し込み
Webサイトのお申し込みはこちら
<https://jisedaichisou2024.go.jp>

読売新聞全国版朝夕刊月極掲載
#みんなで作るシンポジウム

大切なエネルギーと紡ぐ 私たちの未来
～どこかの誰かだけの問題じゃない地層処分～

2024年 **2月21日**（水） **ウイングあいち 2F大ホール**
14:00～17:00（13:15開場）（参加費 490円（税別））

参加無料（※200名）

プログラム
【第一部】14:00～
●開会の挨拶
●質疑応答の時間 【下野大副 読売エネルギー情報制作局長特別講演】
●付録「アースリフト」の活用
【第二部】14:00～17:00
●「アースリフト」の活用
●「アースリフト」の活用

パネリスト
石川 尚也、宮野 裕人、江 美穂、大宮 幸恵、山内 ともな

お申し込み
Webサイトのお申し込みはこちら
<https://jisedaichisou2024.go.jp>

中日新聞掲載（朝刊2024年1月26日／夕刊2024年2月1日、2月10日）

読売新聞全国版朝夕刊月極掲載
#みんなで作るシンポジウム

大切なエネルギーと紡ぐ 私たちの未来
～どこかの誰かだけの問題じゃない地層処分～

2024年 **2月21日**（水） **ウイングあいち 2F大ホール**
14:00～17:00（13:15開場）（参加費 490円（税別））

参加無料（※200名）

プログラム
【第一部】14:00～
●開会の挨拶
●質疑応答の時間 【下野大副 読売エネルギー情報制作局長特別講演】
●付録「アースリフト」の活用
【第二部】14:00～17:00
●「アースリフト」の活用
●「アースリフト」の活用

パネリスト
石川 尚也、宮野 裕人、江 美穂、大宮 幸恵、山内 ともな

お申し込み
Webサイトのお申し込みはこちら
<https://jisedaichisou2024.go.jp>

読売新聞全国版朝夕刊月極掲載
#みんなで作るシンポジウム

大切なエネルギーと紡ぐ 私たちの未来
～どこかの誰かだけの問題じゃない地層処分～

2024年 **2月21日**（水） **ウイングあいち 2F大ホール**
14:00～17:00（13:15開場）（参加費 490円（税別））

参加無料（※200名）

プログラム
【第一部】14:00～
●開会の挨拶
●質疑応答の時間 【下野大副 読売エネルギー情報制作局長特別講演】
●付録「アースリフト」の活用
【第二部】14:00～17:00
●「アースリフト」の活用
●「アースリフト」の活用

パネリスト
石川 尚也、宮野 裕人、江 美穂、大宮 幸恵、山内 ともな

お申し込み
Webサイトのお申し込みはこちら
<https://jisedaichisou2024.go.jp>

(4) 文献調査実施自治体と他の原発立地自治体の若年層交流事業

原子力関係の立地自治体に在住する若年層同士で交流や研究発表等を行うことで、地層処分事業をはじめとする原子力の諸課題について若年層の理解促進につなげるとともに、将来のまちづくりの観点から原子力とどのように向き合っていくか等について考えるきっかけを提供した。

◆視察研修会実施概要

日 時：2023年8月2日（水）～13日（日）

場 所：日本国内（青森県六ヶ所村、福島県福島第一原子力発電所）

スウェーデン国内（ストックホルム、オスカーシャム、エストハンマル）

参加者数：13名

全体行程

5/20（土）：関係者キックオフ会議

6/18（日）：保護者説明会・事前研修

8/2（水）：日本原燃PRセンター視察、日本原燃増田尚宏社長講話

8/3（木）：日本原燃施設視察（低レベル放射性廃棄物埋設センター、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター、燃料貯蔵プール）

8/4（金）：東京電力福島第一原子力発電所見学（5号機の使用済み核燃料プール、共用プール乾式キャスク保管場所）

8/5（土）：移動日（羽田空港→ワルシャワ空港→アーランダ空港→現地ホテル）

8/6（日）：事前学習（現地交流のためのスライド作成）

8/7（月）：エスポ岩盤研究所視察、現地交流のためのスライド作成

8/8（火）：キャニスター研究所視察、オスカーシャム住民との交流、現地交流のためのスライド作成

8/9（水）：フォルスマルク（最終処分サイト等）視察、エストハンマル自治体職員との交流、駐スウェーデン日本国大使との交流、現地交流のためのスライド作成

8/10（木）：ヴァッテンフォル高校生との交流（スライド発表・日本文化紹介）振り返り

8/11（金）：ヴァッテンフォル社の脱化石燃料社会に向けた取組の講義、スライド発表

8/12（土）：視察や交流の振り返り、報告会準備、移動日

8/13（日）：成田空港着・解散

◆報告会

日 時：2023年9月16日（土）～18日（月・祝）

場 所：ナショナルトレーニングセンター Jヴィレッジ

聴講者数：約120名

議 事：①開会挨拶（NPO法人ハッピーロードネット理事長 西本由美子）

- ②挨拶 経済産業大臣によるビデオレター
- ③挨拶 資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課長 下堀友数
- ④高校生による活動報告
 - 研修を通しての貴重な体験
 - 野田 麗華 (青森県立 六ヶ所高校)
 - 太田 諒 (福島県立 磐城桜が丘高校)
 - エスポ岩盤研究所から学ぶ魅せ方の工夫
 - 大川 夏輝 (福島県立 磐城高校)
 - 大井 紀葉 (福島県立 原町高校)
 - 下園 愛心 (学校法人福井学園 福井南高校)
 - コミュニケーションの重要性
 - 鹿山 成美 (福島県立 原町高校)
 - 蛭名 翔大 (北海道 寿都高校)
- ⑤パネルディスカッション
 - テーマ:日本の高レベル放射性廃棄物の最終処分地はいったいどこへ?
 - 参加:大屋 昊平(青森県立 六ヶ所高校)
 - 河田 悠(茨城県立 水戸第二高校)
 - 伊東 聡太(福島県立 相馬高校)
 - 岡田 瑠衣(福島県立 磐城桜が丘高校)
 - 中山 凌空(北海道 寿都高校)
- ⑥講評・質疑応答
- ⑦総括 元東京工業大学准教授 澤田哲夫
- ⑧閉会挨拶 高校生代表

◆情報発信

本事業には福島民報・福島民友の2社が随行し、広報を実施。また、視察や報告会の内容を取りまとめた副読本を作成し、関係各所へ配布した。

令和5年度原子力発電施設広聴・広報等事業
(放射性廃棄物に関する理解促進・支援事業)
事業報告書概要版

一般財団法人 電源地域振興センター
令和6年3月29日

令和5年度原子力発電施設広聴・広報等事業 (放射性廃棄物に関する理解促進・支援事業) 実施概要

(1) 自治体職員の連絡先管理と交流会（情報提供と意見交換）の開催

実施内容	実施回数/対象	実施内容
メール配信による情報提供	27回/約 2,000件	全自治体への一斉配信メールシステムを構築した。配信エラー時のアドレス変更は情報連携し速やかに実施した。
自治体職員向け意見交換会	5回/各ブロック別 オンライン	経済産業局及び沖縄総合事務局の地域ブロックを①北海道、②東北・関東、③中部・北陸・近畿、④中国・四国、⑤九州・沖縄ごとに1回ずつオンラインにて実施。資源エネルギー庁、NUMOによる情報提供、質疑応答を実施。

(2) 多様な意見を持つ方々との交流会の開催

実施内容	実施回数/参加人数	実施内容
深層対話事務局会議の実施	3回/延べ29名	推進・慎重双方の専門家等による意見交換を実施。地層処分事業に関する論点の選定、見解の違いを超えて共有できる事実認識、慎重側・推進側の見解のとりまとめを行い、論点がわかりやすい資料の作成を検討した。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

実施内容	実施回数/参加人数	実施内容
① 次世代層主体によるイベント等の実施（最終処分の認知向上）	5回/2,214名	次世代層に対して、最終処分に関する認知を高めるため、次世代層主体によるイベント等（大学祭出展等）を5回行い、まとめとしてミライブ総会を実施した。
② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）	5回/246名	次世代層に対して、最終処分に関する認知を高めるため、大学等の授業や学内サークルでの勉強会に対して、資源エネルギー庁職員およびNUMO職員の出前授業を5回実施した。
③ 地域での次世代層向け理解活動の企画の実施（最終処分の理解促進）	2回/22名	全国2カ所に分けて一般向けに様々な意見を交わすための企画（勉強会）を開催した。その際、中立な立場のファシリテーターを活用し、中庸な議論になるように実施した。
④ 最終処分理解促進のためのシンポジウムの実施	1回/207名 (来場・オンライン)	名古屋会場において、最終処分理解促進のためのシンポジウムを1回実施した。

(4) 文献調査実施自治体と他の原発立地自治体の若年層交流事業

実施内容	実施日程/参加人数	実施内容
国内・海外視察研修	8/2～13/高校生13名	国内の原子力関連施設の視察を行った後、地層処分事業の先進地であるスウェーデンを視察し、その違いを学んだ。
視察報告会	9/16～18/参加者120名	視察で学んだこと、日本とスウェーデンの違いなどについて福島県にて視察報告会を実施した。

(1) 自治体職員の連絡先管理と交流会（情報提供と意見交換）の開催

●目的

最終処分に向けた取組は、国民・地域の理解を得ながら進めていくことが重要であるため、自治体職員（各都道府県及び市町村の放射性廃棄物の担当）の方々への最終処分事業に関する情報提供、意見交換会を開催することを目的として実施した。また、連絡先管理及び情報提供には、メール配信システムを利用し、登録者変更の案内等を適宜送信した。要望に応じてメーリングリストを提出できるように、専任スタッフを配置し定期的な連絡先管理リストのリバイスを実施した。

●実施概要

開催期間 令和 6年 1月 30日～ 令和 6年 2月 13日 5日間

開催方法 オンライン形式（YoutubeLiveにて配信）

主 催 資源エネルギー庁 放射性廃棄物対策課

事務局 一般財団法人 電源地域振興センター

配信業者 株式会社ビデオプロ・シラフジ

●開催方法・募集案内方法等

- ・開催前には、46 都道府県（福島県を除く）対象市町村あてに、メーリングリストを利用して開催案内を送付した。
- ・提供されたメーリングリストを利用し、メール配信システムにて開催案内を各地域ブロック単位（5ブロック）で配信を行い、参加者の募集を行った。
- ・開催終了後に、参加者に対して説明資料及びジノモノ等情報冊子を郵送した。

●WEB登壇者一覧

1月30日（月） 東北・関東ブロック

資源エネルギー庁 下堀課長 原子力発電環境整備機構 植田理事

2月1日（火） 中部・北陸・近畿ブロック

資源エネルギー庁 桑原課長補佐 原子力発電環境整備機構 高橋部長

2月7日（金） 中国・四国ブロック

資源エネルギー庁 桑原課長補佐 原子力発電環境整備機構 多田部長

2月9日（火） 九州・沖縄ブロック

資源エネルギー庁 桑原課長補佐 原子力発電環境整備機構 岩崎部長

2月13日（月） 北海道ブロック

資源エネルギー庁 桑原課長補佐 原子力発電環境整備機構 井口部長

●プログラム

14:00 開会～挨拶 資源エネルギー庁

14:05 資料映像 「地層処分」とは…？エネルギーの過去、現在、未来を見つめて

14:20 情報提供 ①資源エネルギー庁

14:50 情報提供 ②原子力発電環境整備機構質疑応答

15:10 質疑応答

15:20 ジノモノ紹介

15:25 閉会 資源エネルギー庁 その後 報道機関対応

(2) 多様な意見を持つ方々との交流会の開催

●目的

地層処分事業に関して推進又は慎重な立場の専門家など多様な意見を持つ方々にお集まりいただき、議論を重ね論点の深堀・整理を実施し、今後、文献調査等が進展する中で、必要に応じて、蓄積してきた知見を活用していくことを検討することを目的として実施した。

●構成メンバー（計11名）

北村正晴氏、伴英幸氏、志津里公子氏、高木章次氏、長野浩司氏、八木絵香氏、高野聡氏、井口幸弘氏、加来謙一氏、下堀友数氏、丹貴義氏

No	実施日程	出席	実施内容	議事概要
第一回	2023/7/5	10名	情報提供 質疑応答 意見交換	<ul style="list-style-type: none">・資源エネルギー庁より、当面の取り組み方針（2023）（案）に関する情報提供・質疑応答を実施。・NUMOより、文献調査段階の評価の考え方（案）に関する情報提供・質疑応答を実施・地層処分事業に関する論点を一般の方々から見てもわかりやすい資料の作成について意見交換を実施。・推進・慎重派の意見をフラットに提示することが重要、現状の理解度を見るのではなく経年変化を追うことが重要で、データについてはその背景などもしっかり知ることが重要、といった意見が出た。
第二回	2023/11/9	9名	情報提供 意見交換	<ul style="list-style-type: none">・NUMOより、北海道寿都町・神恵内村における文献調査段階での対話の場に関する情報提供を実施。・その後、本事務局会議の方向性及び、分かりやすい資料の制作に関する意見交換を実施。双方向シンポジウムの実施について、住民がしっかり学べる環境づくりについて議論を交わした。対話の場については、自治体内で分断が起こらないような、スムーズに対話がなされるようなガイドライン・ルールを作る方法や、対話を続けていくことが目的になっていることが住民に伝わっていないなどの問題点が指摘された。
第三回	2024/3/6	10名	情報提供 意見交換	<ul style="list-style-type: none">・資源エネルギー庁より、2月21日に実施したシンポジウムに関する情報提供、NUMOより北海道寿都町・神恵内村における文献調査の報告書案、対話の場の現状について情報提供が行われた。その後質疑応答を実施。・シンポジウムの実施については、コーディネーターの役割が大きく、完全な中立的な立場はないため、推進・慎重派2名体制で行うことで、双方が納得する形をとることが必要、神恵内村で実施したシンポジウムについては、継続的にかつ回数をしっかり重ねて、住民に情報提供を継続する形が望ましい、これまで公表したデータによって形成された世の中のイメージと実態が乖離することがないように報告書を作成すべきといった問題点が指摘された。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

①次世代層主体によるイベント等の実施

●目的

地層処分事業は長期間に渡る事業であり、次世代層の理解促進が重要であるが、10代後半から20代前半の若者は本課題について、無関心であることが多い。その為、本事業では、現在の国際的な共通認識は「地層処分」であることの認知拡大、理解促進を学生と共に検討し、「知る・考え始めるキッカケ」を創っていくことを目的として事業を実施した。

●実施概要

開催期間	: 令和5年4月～令和6年3月
開催内容	: 大学祭イベント5回 (東京都市大学2回、福井工業大学、岡山大学、東京大学) オンライン 2回(地層処分説明会2回) 総会 1回(中部電力(株)浜岡原子力発電所)
主 体	: ミライブプロジェクト
事務局	: 一般財団法人 電源地域振興センター

●制作物

大学祭イベント実施の際、学生間同士での一体感や、ミライブへの帰属意識を感じてもらうことを目的として、ロゴの入ったエプロンを10着作成した。

エプロンのデザイン及び色等については学生の希望を元に作成した。



●イベント概要

■大学祭イベント(延べ参加者2,214名)

2023年9月17日(日)18日(月・祝)東京都市大学 大学祭(横浜) 出展 来場者448名
自転車発電、ベントナイトを使ったバスボム作り及び地層処分事業の概要説明

2023年10月7日(土)8日(日)福井工業大学 大学祭出展 来場者272名
ベントナイトを使ったバスボム作り及び地層処分事業の概要説明

2023年11月3日(金・祝)4日(土)岡山大学 大学祭出展 来場者406名
ベントナイトを使ったバスボム作り及び地層処分事業の概要説明

2023年11月4日(土)5日(日)東京都市大学 大学祭(世田谷) 出展 来場者357名
ベントナイトを使ったバスボム作り及び地層処分事業の概要説明

2023年11月24日(日)18日(月・祝)東京大学 大学祭出展 来場者731名
自転車発電及び地層処分事業の概要説明

2024年2月24日(土)25日(日)ミライブ総会 参加者16名
中部電力(株)浜岡原子力発電所視察

今年度の活動報告・次年度企画 企画検討会(ワークショップ)

■その他

2023年9月5日(火)、9月14日(木)資源エネルギー庁担当者によるミライブ新規入会者
に対する地層処分概要説明

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業 ①次世代層主体によるイベント等の実施

●東京都市大学 大学祭（横浜）出展 9月17日（日）18日（月・祝）

東京都市大学ISO学生委員会と共同で、9月に開催された横浜祭に出店した。自転車発電とバスボム実験を実施し、来場者へ地層処分の説明を行い、シール形式のアンケートに回答いただいた。本企画は横浜祭来場者からの投票の結果、優れたものとして学生部長賞を受賞した。

<参加者アンケート結果（当日来場者約448名）>

Q1：「地層処分事業」についてご存知でしたか？ 知っている：20% 知らなかった：80%

Q2：「地層処分事業」について理解できましたか？ 理解した：80% 少し理解した：20%

<来場者の感想>

- ・バスボム作りに参加して地層処分を知ることが出来た。
- ・子どもと一緒に来たが、地層処分という問題について楽しく知ることが出来た。
- ・自転車発電を通じて、発電し続けることの大変さを知った。



(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

①次世代層主体によるイベント等の実施

●福井工業大学 大学祭出展 10月7日（土）8日（日）

福井工業大学岩永ゼミと連携し、大学祭に出展。ベントナイトを使ったバスボム作りを実施し、来場者に対して地層処分事業の概要説明を実施し、シール形式のアンケートに回答いただいた。

<参加者アンケート結果（当日来場者約272名）>

Q1：「地層処分事業」についてご存知でしたか？ 知っている：20% 知らなかった：80%

Q2：「地層処分事業」について理解できましたか？ 理解した：73% 少し理解した：27%

<来場者の感想>

- ・今日参加しなければ知ることはなかった。非常に勉強になった。
- ・地層処分という問題は難しかったが、バスボムを作りながら楽しく知ることが出来た。
- ・難しい問題に学生が挑んでいることは非常に関心。これからも頑張ってもらいたい。



(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

①次世代層主体によるイベント等の実施

●岡山大学 大学祭出展 11月3日（金・祝）4日（土）

岡山大学津島キャンパスで11月に開催された大学祭に出店した。バスボム実験と、NUMO協力によるベントナイト実験を実施した。来場者に対して地層処分の説明を行い、シール形式のアンケートに回答いただいた。

<参加者アンケート結果（当日来場者約406名）>

Q1：「地層処分事業」についてご存知でしたか？ 知っている：14% 知らなかった：86%

Q2：「地層処分事業」について理解できましたか？ 理解した：82% 少し理解した：18%

<来場者の感想>

- ・先の長い話であるため、子どもたちの世代にも知ってもらう必要があることが分かった。
- ・学生がキチンと将来のことを考える良い取り組みだと思った。
- ・上関町で話題となっている中間貯蔵と地層処分の何が違うのか知らなかった。詳しく知ることができて大変良かった



(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

①次世代層主体によるイベント等の実施

●東京都市大学 大学祭（世田谷）出展 11月4日（土）5日（日）

東京都市大学ISO学生委員会と共同で、11月に開催された世田谷祭に出店した。バスボム実験を実施し、来場者へ地層処分の説明を行い、シール形式のアンケートに回答いただいた。

<参加者アンケート結果（当日来場者約357名）>

Q1：「地層処分事業」についてご存知でしたか？ 知っている：42% 知らなかった：58%

Q2：「地層処分事業」について理解できましたか？ 理解した：86% 少し理解した：14%

<来場者の感想>

- ・非常に丁寧に説明してもらったので分かり易かった。
- ・大事な問題だと感じた。お金を払って海外で処分と考えたが、自国のゴミは自国で処分するという事を知った。
- ・ニュースで聞いたことがあったが、詳しく知ることができて大変良い機会になった。



(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

①次世代層主体によるイベント等の実施

●東京大学 大学祭（駒場）出展 11月24日（金）25日（土）26日（日）

国際資源・エネルギー学生会議(IRESA)と共同で、11月に開催された駒場祭に出店した。自転車発電を実施し、来場者へ地層処分の説明を行い、口頭でアンケートに回答いただいた。

<参加者アンケート結果（当日来場者約731名）>

Q1：「地層処分事業」についてご存知でしたか？ 知っている：13% 知らなかった：87%

Q2：「地層処分事業」について理解できましたか？ 理解した：99% 少し理解した：1%

<来場者の感想>

- ・全くこの問題を知らなかったが、説明を聞いて興味が沸いた。自分でも調べてみようと思った。
- ・普段この問題を目にしたたり耳にしたたりすることは無かった。もっと、この問題を広く知れるきっかけが増えると良いと思った。



(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

①次世代層主体によるイベント等の実施

●ミライブ総会（浜岡原子力発電所視察）

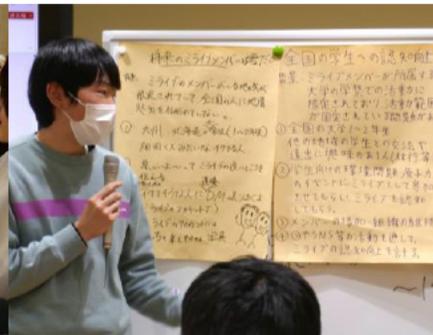
今年度の活動報告及び次年度に向けた企画案を考える総会を開催。2日間にかけて開催し、1日目は中部電力（株）浜岡原子力発電所を視察、2日目に視察振り返り及び総会を実施した。

<具体的内容>

大学祭イベントに関する評価点として、「幅広い層に対して広報活動が出来た」「単体で広告を打つ必要がないため、効率的に活動が出来た」等の点が上がった。一方、改善案としては「本来のターゲット層である大学生に対する活動が不十分だった」、「活動地域が限定的（東京、福井、岡山）だった」「大学祭は秋に集中するため、活動時期に偏りが生じた」といった意見が出た。

<次年度企画について>

次年度の大学祭企画として「地層処分を絡めた謎解きイベント」や「地層処分に係る最新技術の紹介」等の提案があった。活動として他にも「環境系のイベントにミライブとして出店」、「ショート動画の作成」、「専門家による講義の実施」等の案があった。またリクルート活動として「ポスターを作成し、大学等に掲示」、「高校生や関連学生団体との交流会」といった案が挙げられた。



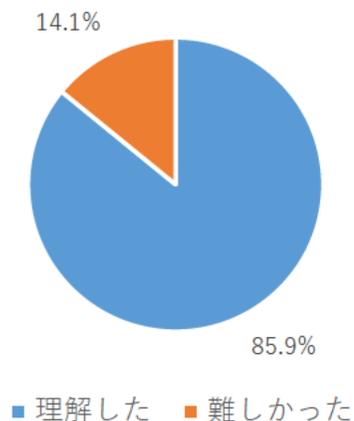
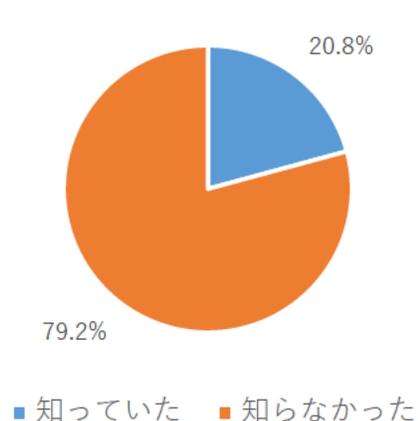
(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

①次世代層主体によるイベント等の実施

●来場者アンケート集計（総来場者数約2,214人）

Q1「地層処分事業」についてご存知でしたか？

Q2「地層処分事業」について理解できましたか？



Q1「地層処分事業」についてご存知でしたか？	合計
知っていた	455人
知らなかった	1,735人

Q2「地層処分事業」について理解できましたか？	合計
理解した	1,934人
難しかった	317人

●内訳

Q1「地層処分事業」についてご存知でしたか？	知っていた	知らなかった	Q2「地層処分事業」について理解できましたか？	理解した	難しかった
東京都市大学（横浜）	92人	356人	東京都市大学（横浜）	359人	108人
福井工業大学	56人	204人	福井工業大学	201人	71人
岡山大学	60人	346人	岡山大学	336人	90人
東京都市大学（世田谷）	151人	191人	東京都市大学（世田谷）	310人	45人
東京大学	96人	638人	東京大学	728人	3人

●アンケート総評

	アンケート総評
成果	<ul style="list-style-type: none"> 前年同様シール形式（東大を除く）でアンケートを実施することで、来場者に対して90%近い回答率をえることが出来た。 東大イベントでのQ2回答が著しく高いが、これは口頭で回答を得たため「理解した」の回答に偏ったものと思われる。
次年度に向けて	<ul style="list-style-type: none"> シール貼付形式のため、あまり詳しくアンケートを得ることが出来ないため、次年度以降は時間がある人のために紙の詳しいアンケートを準備する等、差別化を図ることも要検討か。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

①次世代層主体によるイベント等の実施

●活動成果と課題

	イベント実施	部員確保	広報
成果	<ul style="list-style-type: none">5イベントを実施し来場者約2,214人へ理解促進活動を行うことができた。本活動により、地層処分事業を知らなかった約1,750人に対して、本事業を認知してもらうきっかけを作ることが出来た。	<ul style="list-style-type: none">部員からの口コミ等により新規部員数が増加し、部員が総勢113名となった。学習支援事業等の新しい繋がりから、新規部員を獲得することに成功した。	<ul style="list-style-type: none">公式インスタグラムを新しく作成し、大学祭イベント等の活動告知や報告を行い、ミライブの活動紹介や地層処分事業の周知を実施した。
課題	<ul style="list-style-type: none">来場者は家族連れ等が多く、老若男女に対して活動をするには出来たが、メインターゲットである大学生・大学院生の来場があまり多くなかった。大学祭は秋に集中するため、活動時期が限定的となった。また、結果として東京、福井、岡山の3地域での理解促進活動となり、地域も限定的となった。	<ul style="list-style-type: none">新規部員は増加したものの、口コミによるものため基本地域に広がりが発生せず、同じ地域内での部員数増となった。新規部員の増はあるものの、既存部員の非アクティブ化が目立つため、既存部員の活動率向上が今後の課題となる。	<ul style="list-style-type: none">投稿はSNS担当が実施したため、一部の部員に作業が集中してしまった。SNS担当が参加出来なかったイベントが発生した。また、インスタグラムに集中した結果、HPやツイッター等他媒体の更新が疎かになった。

●次年度にむけて

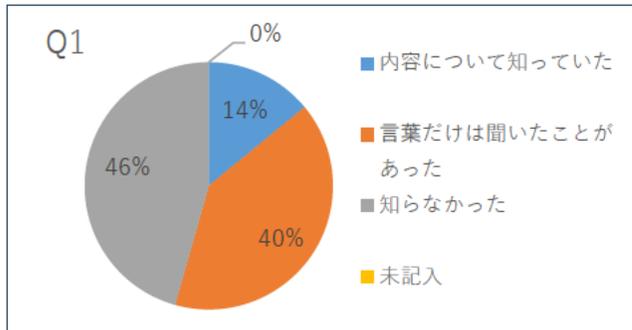
- 部員数増加に向けて、1期生と同様に各地域の学生団体との関係づくりを行い、新たな地域からの部員数増加及びイベント開催を目指す。また、イベント参加条件の緩和等を設け、既存部員の活動率向上を図る。
- 自転車発電、バスボム実験以外の企画を学生と練り、イベント時における大学生の来場率上昇を目指す。
- 各媒体からの定期的な情報発信を実施し、しっかりと活動している団体であることをアピールすることで、活動への参加を検討している学生の心理的障壁を下げる。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

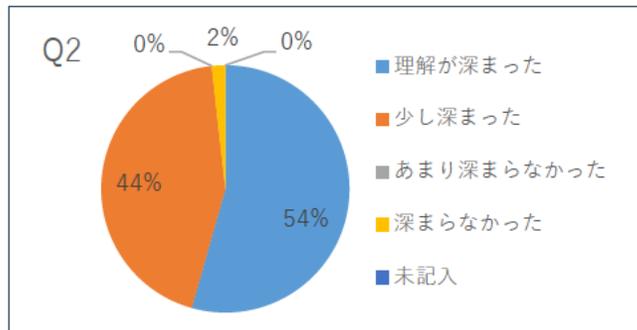
② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

● 山口大学参加者アンケート分析結果（回収サンプル数57 性別：男性41名 女性15名 無回答1名）

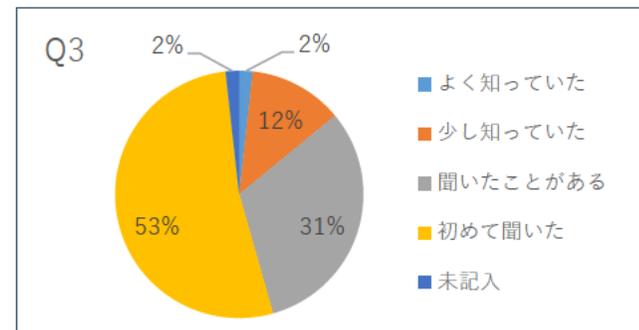
「高レベル放射性廃棄物の地層処分」に関する認知について



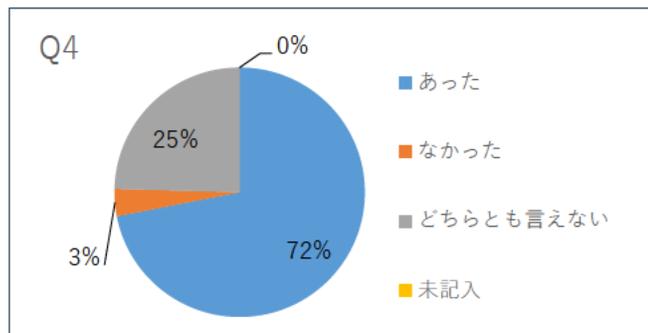
専門家の説明に対する理解について



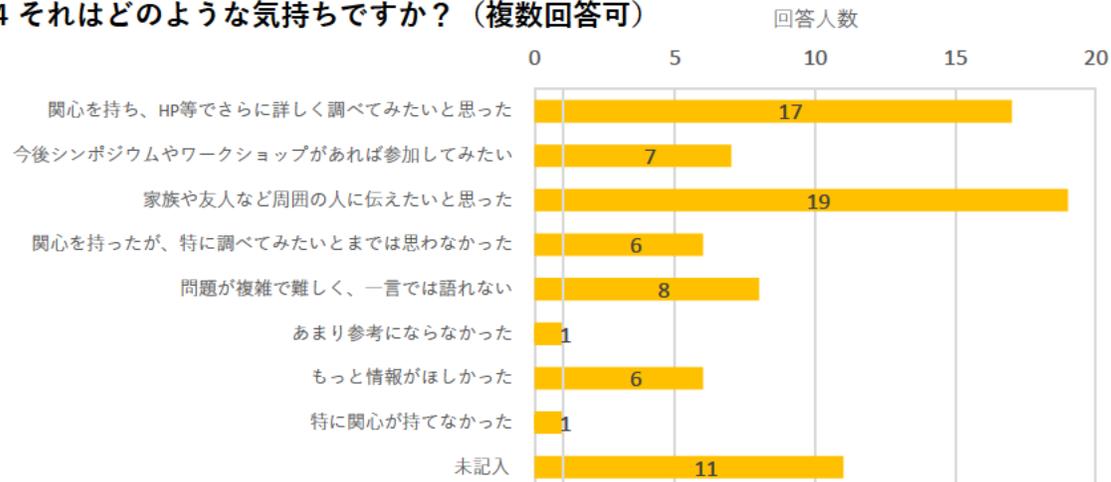
原子力発電環境整備機構（NUMO）に関する認知について



本日の講義を聞いて、ご自身の気持ちの変化



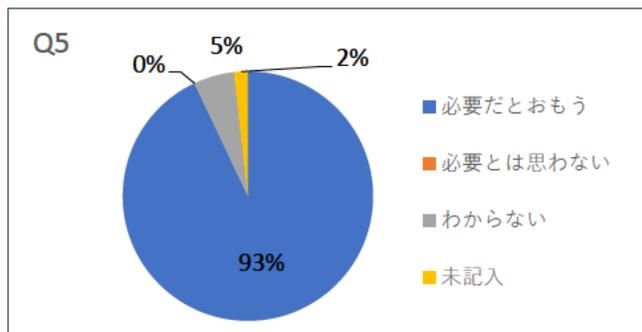
Q4 それほどのような気持ちですか？（複数回答可）



(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

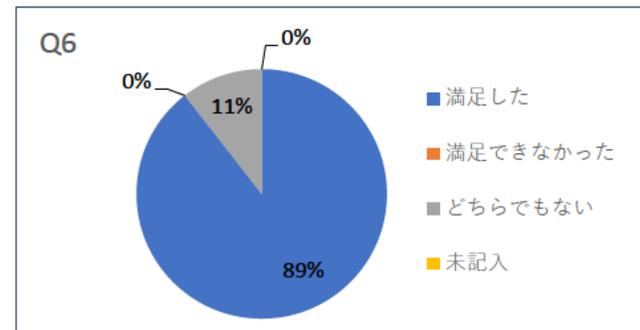
「高レベル放射性廃棄物の地層処分」の必要性について



Q5 そう思う理由

・回答なし

本日の専門家の説明に対する満足度



Q6 講演の中で特に印象に残った説明がありましたらご記載ください。

・回答なし

● 自由回答

Q7 その他、ご意見・ご要望がございましたらご記載ください。

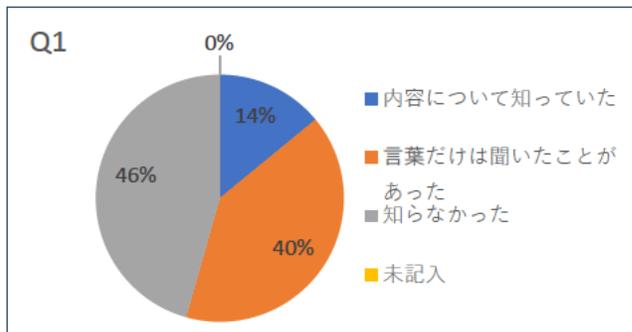
- ・地層処分について知らないことがとても多かったので面白い講義だった。ベントナイトについても初めて知り、実験もとても面白かった。
- ・将来のために安全性を十分に確保された上で処理が行われていること、取組が進められていることが分かりました。
- ・今回の講演で地層処分についてニュースでチラッと聞いたようなことの知識しかなく、よくわからなかったのですが地層処分についての原理、科学的根拠が分かり、とても分かりやすかったです。
- ・地層処分があると生活・環境への悪い影響を及ぼさないようにすることができるため必要であると思った。初めて聞いた内容がたくさんあったけど、お二方の話を聞き、より理解が深まったと思う。
- ・高レベル放射性廃棄物については以前からなんとなく知っていたが今回の講義でより詳しく知ることが出来た。廃棄物の問題はこれからの自分が生きていく日本にとってとても大切な問題であることから、その過程で環境や人に与える影響を調べていきたいと思った。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

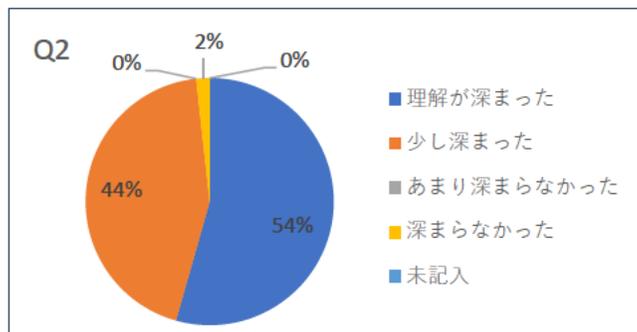
② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

● 慶応義塾大学参加者アンケート分析結果（回収サンプル数46 性別：男性38名 女性7名 無回答1名）

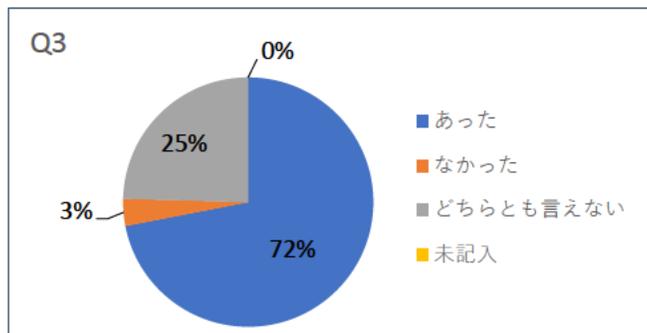
「高レベル放射性廃棄物の地層処分」に関する認知について



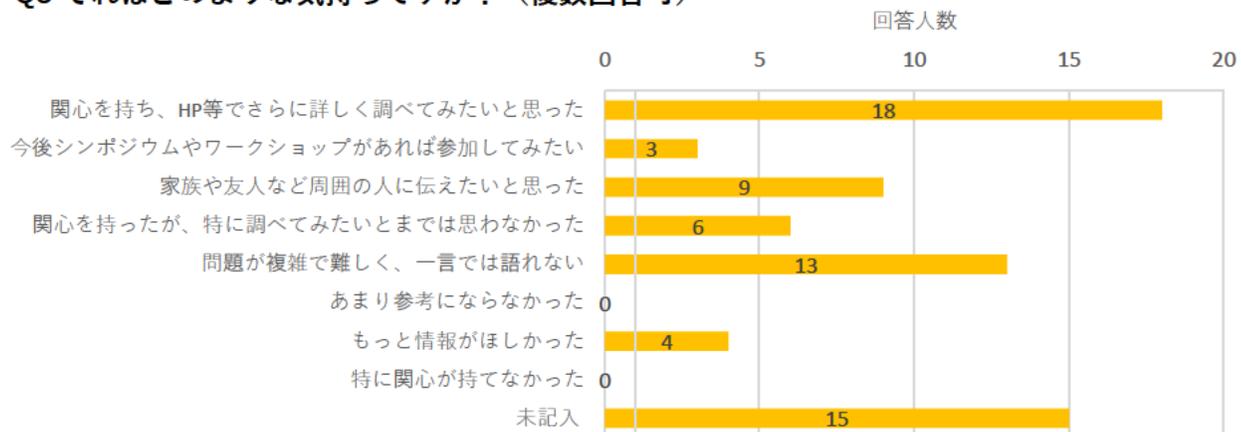
専門家の説明に対する理解について



本日の講義を聞いて、ご自身の気持ちの変化



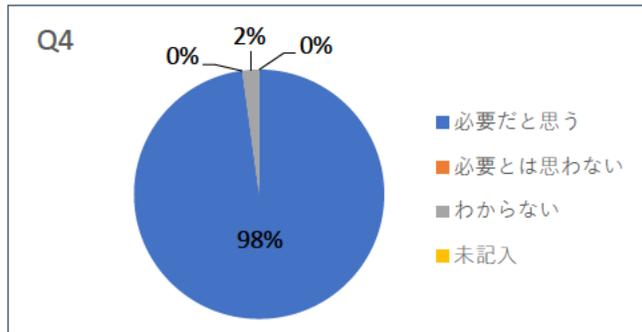
Q3 それほどのような気持ちですか？（複数回答可）



(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

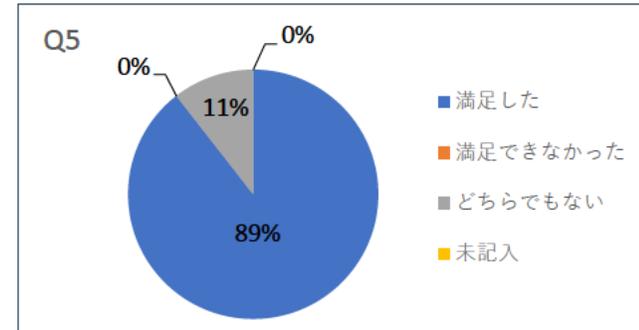
「高レベル放射性廃棄物の地層処分」の必要性について



Q4 そう思う理由

- ・原子力発電は今後の情勢の中で拡大していく必要がある。そこで出てくる廃棄物をどのように処理するのが良いかと考えた際、地層処分が良いのではないかと考えた。
- ・現状で安全に廃棄できると言われている方法があるのであれば、積極的に取り入れるべきではないのだろうか。エネルギーに乏しい日本がエネルギーの選好みをしていたら、エネルギー不足に陥ってしまうだろう。
- ・たくさんのエネルギー消費をする生活を送っている日本社会において、使うだけでなく、最後の処理についても考えるべきだと思った。
- ・放射性廃棄物の処分は、現時点で対応しなければいけない問題へと成長したため、その「最終手段」としての地層処分は現実的合理性を有する。
- ・地上に置くリスクがある。放射性廃棄物によるさまざまな影響を抑え込むためには、それしか方法がないように思える。
- ・放射性廃棄物は増える一方なのでどこかで必ず処分する必要がある。地中ならきちんとした調査があれば安全な処理になると思うから。

本日の専門家の説明に対する満足度



Q5 講演の中で特に印象に残った説明がありましたらご記載ください。

- ・原子力の最終処分地の問題が解決しなければ、デジタル化が進んでいる世界に置いていかれる可能性もある。最終処分地の立候補を増やす為にも施策が必要だと感じた。
- ・処分場ができる地域だけでなく、日本全体の問題であるという言葉が印象的でした。
- ・再処理工場までの道で専用の道路が必要だったという説明は初めて伺った。海岸沿いの説明として納得がいくものであった。
- ・自治体との合意形成について、文献調査をまず受け入れてくれないと話が進まないところに少しもどかしさを感じました。
- ・ガラス固化体は30-50年程度冷却してから最終処分する必要があるという点。
- ・放射性物質をどのように処理しているのか知らなかったので、ガラスに溶かして固化していると聞いて驚いた。地層処分事業のビジネスには、官民の連携が必須になると思う。現在ESGやSDGsなど社会貢献の動きが活発化しているため、今後どのようなビジネスが生まれるのか楽しみである。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

● 自由回答

Q6 その他、ご意見・ご要望がございましたらご記載ください。

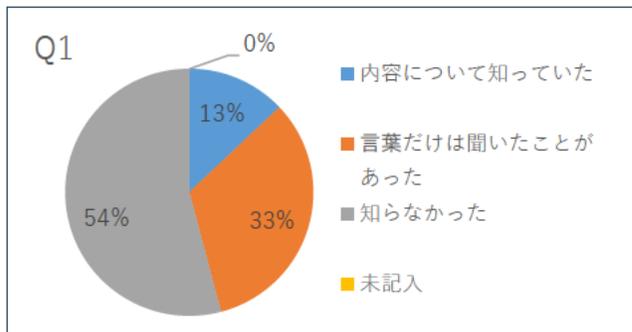
- ・原子力発電の最大のネックとなるのが安全性だと思うのですが、銚子沖での大規模海上風力発電など今現在進んでいる自然エネルギーを利用した発電などと比較してコストパフォーマンスや将来性などの具体的な比較がお聞きしたいなと思いました。
- ・貴重な講義をありがとうございました。私としては政府の考えを人々に伝える上でいい授業であったと感じました。ただ、少し早口であるように見えてしまったので直したほうが説得力が上がるのかなと思いました。
- ・自治体の住民への必要性等の十分な説明が必要だと思うが、現実的には難しいだろう。国ももっと積極的に行えないか。（地域TVでのCMなど。）
- ・合意を取れた自治体に金銭面で補助をするのは当然と言えるが、その周辺の自治体との合意は取れないのか。それを含めた合意なのかが気になりました。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

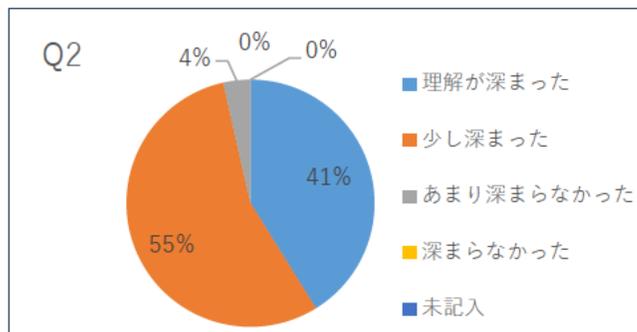
② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

● 淑徳大学参加者アンケート分析結果（回収サンプル数85 性別：男性62名 女性22名 無回答1名）

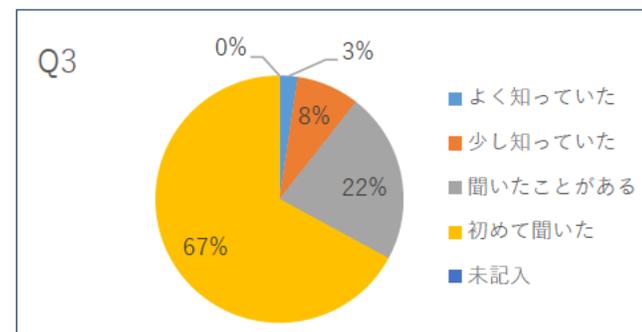
「高レベル放射性廃棄物の地層処分」に関する認知について



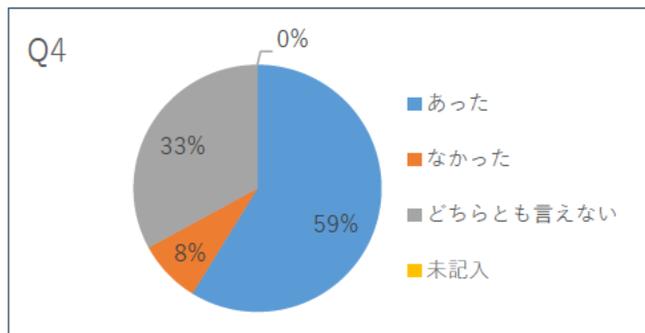
専門家の説明に対する理解について



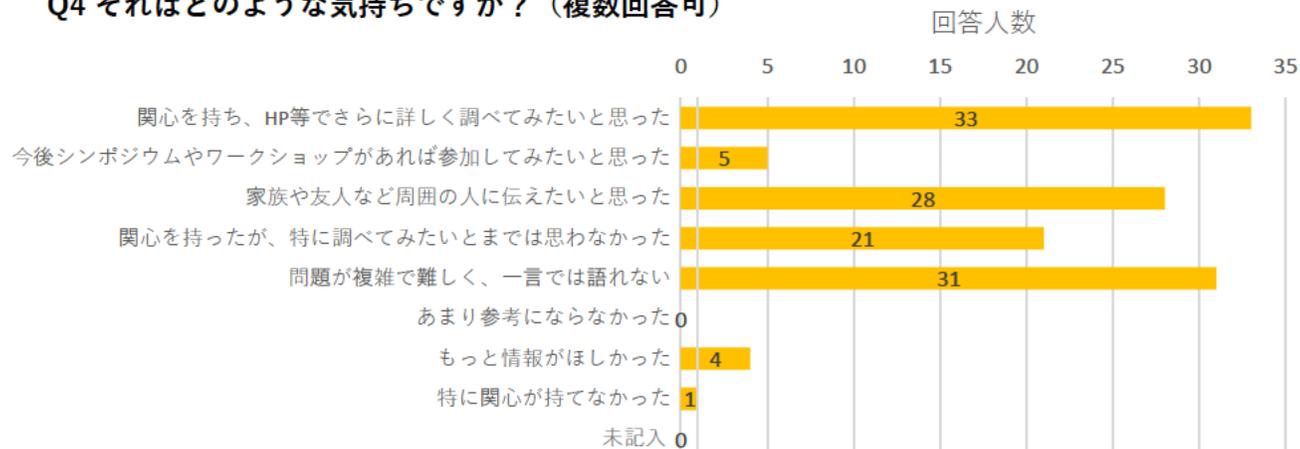
原子力発電環境整備機構（NUMO）に関する認知について



本日の講義を聞いて、ご自身の気持ちの変化



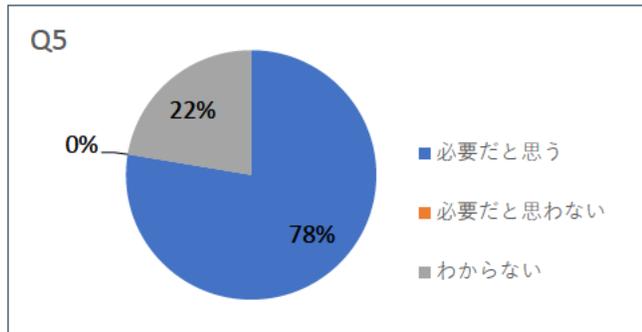
Q4 それはどのような気持ちですか？（複数回答可）



(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

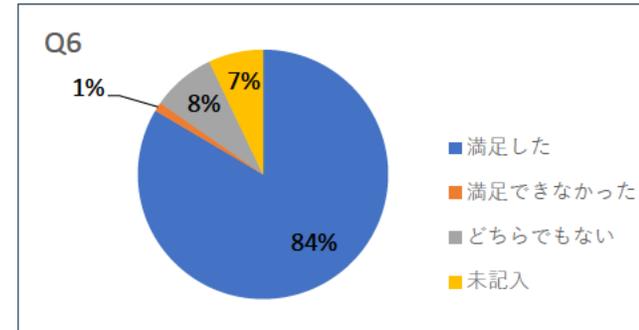
「高レベル放射性廃棄物の地層処分」の必要性について



Q5 そう思う理由

- ・今後、放射性廃棄物の地層処分は必要だと考えた。技術力が上がり、安全に処理を行うことが必要だと思った。必要なのはわかった上で、自宅近くにできるのはどう思うかという投げかけがあった。もちろん、自分の近くにないほうが嬉しいと感じた。しかし、誰かが負担を請け負うことが大事だと思った。もし、そうなった場合は、しっかりと内容を理解し、受け入れたいと思った。
- ・人々が安全に暮らすことができる。また、今だけでなく、将来の安全性を保つことにおいても必要だと思った。（同様のご意見多数あり）
- ・5%のものしかできないが、ゆくゆくは多くなり処分に困ることになると思うため地層処分は必要であると思った。正直聞いていてとてもわくわくした。実際に作業風景を見たいと思った。
- ・安全な処分であることが第一であり、地中を活用するのはそのひとつだと感じている。しかし、第三者にその存在が認知されづらいというデメリットも感じる。

本日の専門家の説明に対する満足度



Q6 講演の中で特に印象に残った説明がありましたらご記載ください。

- ・ベントナイトの自然の中で果たす役割を実験を通して説明をすることで理解がしやすかった。
- ・ガラス固化体のしくみが面白いと感じた。実験も行い、どういものかイメージができた。（同様のご意見多数あり）
- ・科学的特性マップ、地層処分の仕組み。
- ・放射性に関することをあまり詳しくなかったのですが、処分についてもあまり考えたことがなかったのですが、地層処分という人や社会への影響をできるだけ少なくして処分できるということがとても印象的でした。
- ・放射性廃棄物は原子力発電の再開という面では問題となることであり、直近では処理水を海に流すなどがあったため、このような形で処理できる可能性があると考えられていることは印象に残った。
- ・あまり知識がなかった放射性廃棄物について詳しく知ることができた。元々原子力についてはマイナスなイメージが強かったが、データなどの具体的な理由を記していただき、地球温暖化を止めるためにも必要であると感じた。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

● 自由回答

Q7 その他、ご意見・ご要望がございましたらご記載ください。

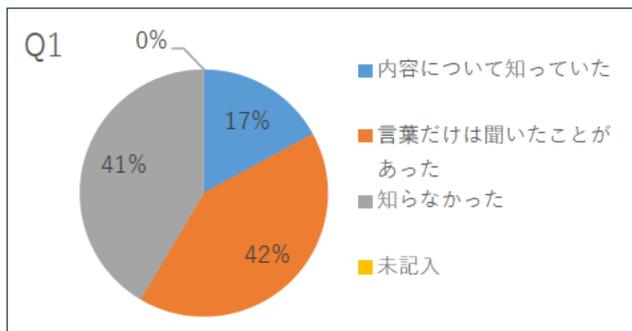
- ・ 高レベル放射性廃棄物の処理の量はどのようになるのかが知りたい。
- ・ 処理水の時のように海外、特に中国からの批判はないのかということ。また、日本という土地自体がダメというような判断され、観光客の現象が考えられないかということ。
- ・ 1つのガラス固化体に含まれる廃棄物の量について、どれくらいの発電分なのか、または1つに何年分の廃棄物が含まれているのかが気になった。
- ・ 講義を聞いて、最近科学技術館に行っていないので、久々に訪れたいと思った。
- ・ ネットなどを使って、さらに知識を身に付けたい。若年層がしっかり理解しておくべきだと思いました。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

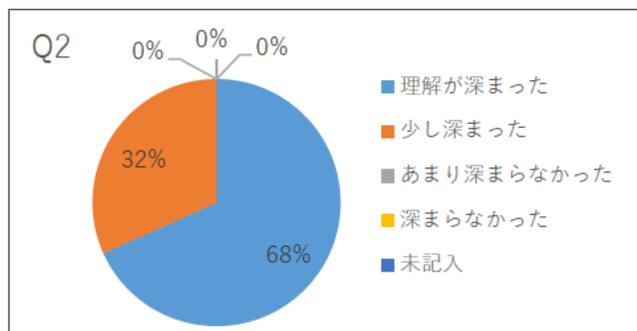
② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

● 東邦大学参加者アンケート分析結果（回収サンプル数41 性別：男性25名 女性15名 無回答1名）

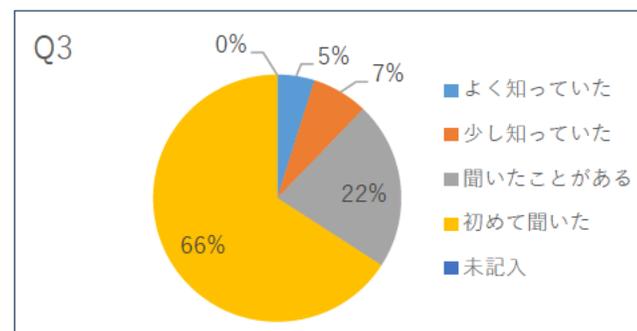
「高レベル放射性廃棄物の地層処分」に関する認知について



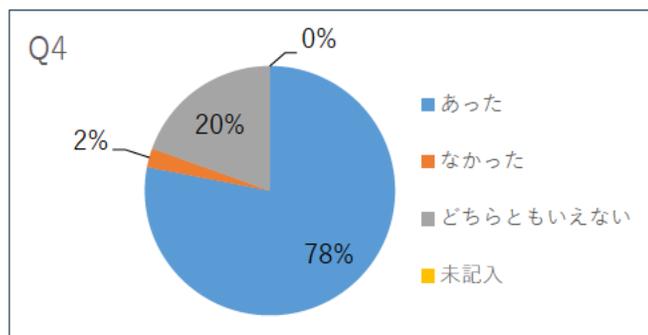
専門家の説明に対する理解について



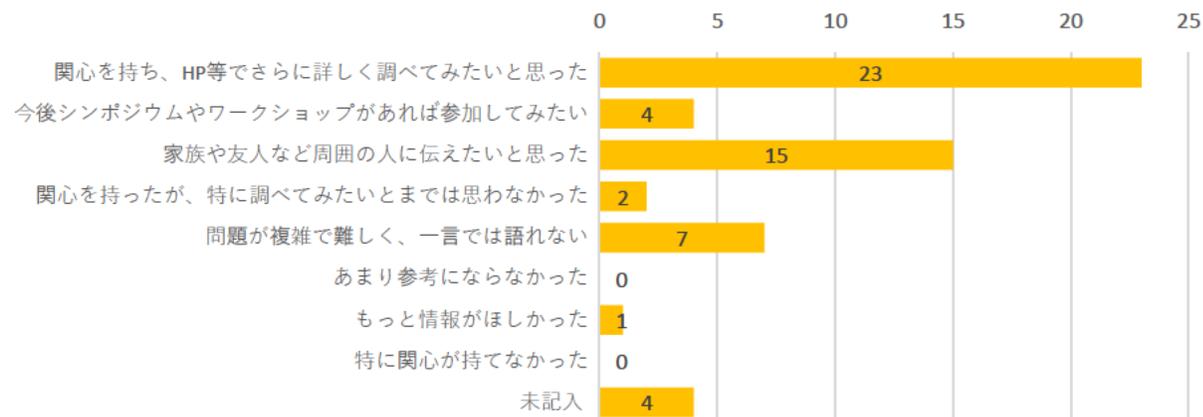
原子力発電環境整備機構（NUMO）に関する認知について



本日の講義を聞いて、ご自身の気持ちの変化



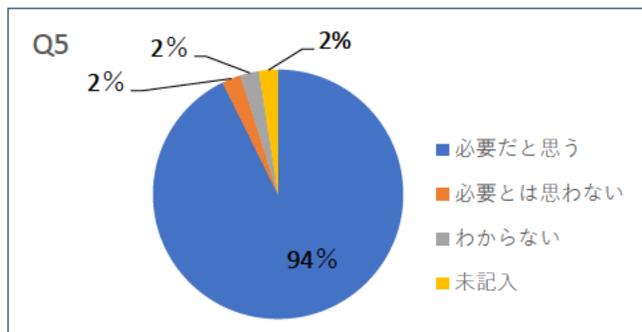
Q4 それはどのような気持ちですか？（複数回答可）



(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

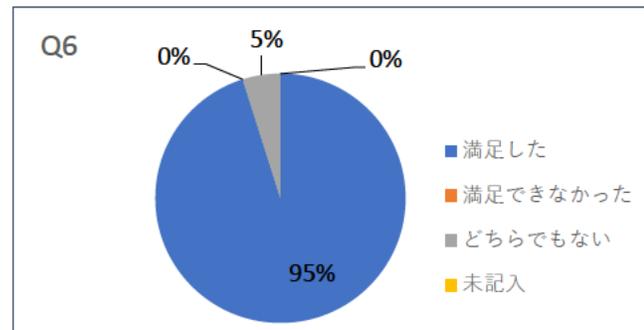
「高レベル放射性廃棄物の地層処分」の必要性について



Q5 そう思う理由

- ・安全面や将来性を考えた上で、現状最も効果的な方法として立案されているため、リスクが少ない方法だと思ったから
- ・今実際に廃棄物があるという現状があり、何かしらの処理の方法について検討する必要があるから
- ・人やその周辺への影響が少ない物が一番良いと考えたから
- ・私たちが生きていく中で欠かせない原子力発電だからこそ、処理まで考えなければいけないと思ったから
- ・講義内でもありましたが、原子力発電所が今後増えなかったとしても、今ある分を処分するのは必要なことだと思うため
- ・これからの世代の為に廃棄物の適切な処分は必要であると考えから
- ・危険な放射線物質の処理を知ること、科学について地下の知見が深まるから
- ・自分の国で排出した廃棄物なら、自分の国でできる限り処理すべきだと思うから
- ・地球環境のためには必要だと思う

本日の専門家の説明に対する満足度



Q6 講演の中で特に印象に残った説明がありましたらご記載ください。

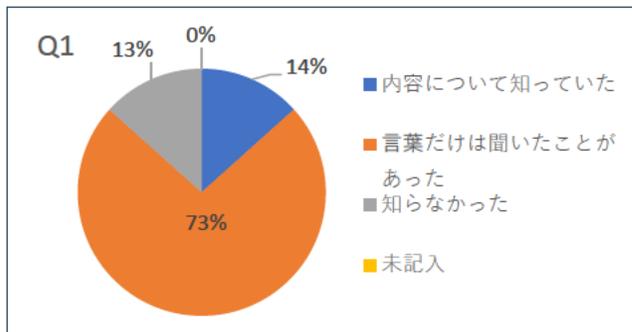
- ・実際に実験をしたことで、理解が深まった
- ・たくさんのシミュレーションを重ねているということ、今すぐにできない結果のでない事業に取り組んでいる人がたくさんいることが印象的でした
- ・質疑応答してもらったので、興味が深まった
- ・放射性物質の処理の難しさと、自身が生きる時代よりも先の時代を見越して取り組むべき問題であること
- ・地層処分が地震などによって影響を受けないのか疑問だったので知ることができてよかった
- ・地層処分後、モニタリングはいつまで続けるかを地域の方々と相談して決める点
- ・教員など周囲の大人がどんなスタンスなのかで、子どもたちの考えにも影響があるので、大人も子どもも正しく恐れるということが鍵になると思いました
- ・質疑応答のところで、全ての質問に対して、学生に分かりやすく説明して頂いたので、学びがたくさんありました

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

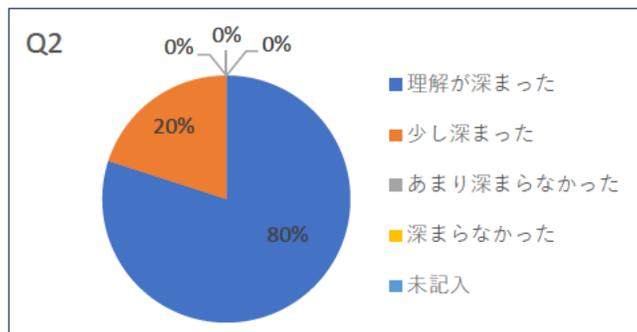
② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

●佐賀大学参加者アンケート分析結果（回収サンプル数15 性別：男性15名 女性0名 無回答0名）

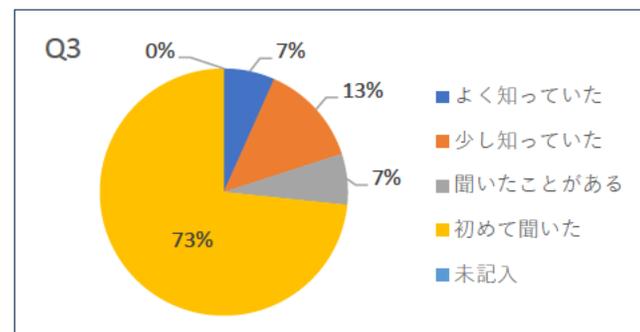
「高レベル放射性廃棄物の地層処分」に関する認知について



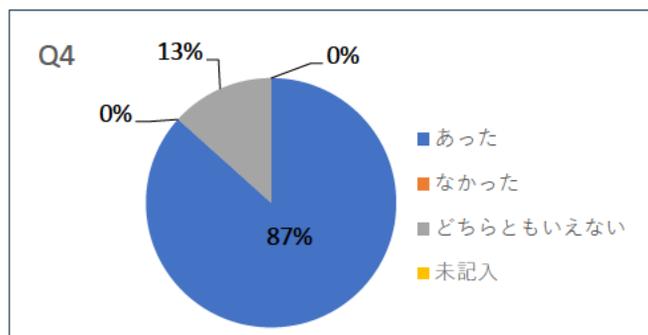
専門家の説明に対する理解について



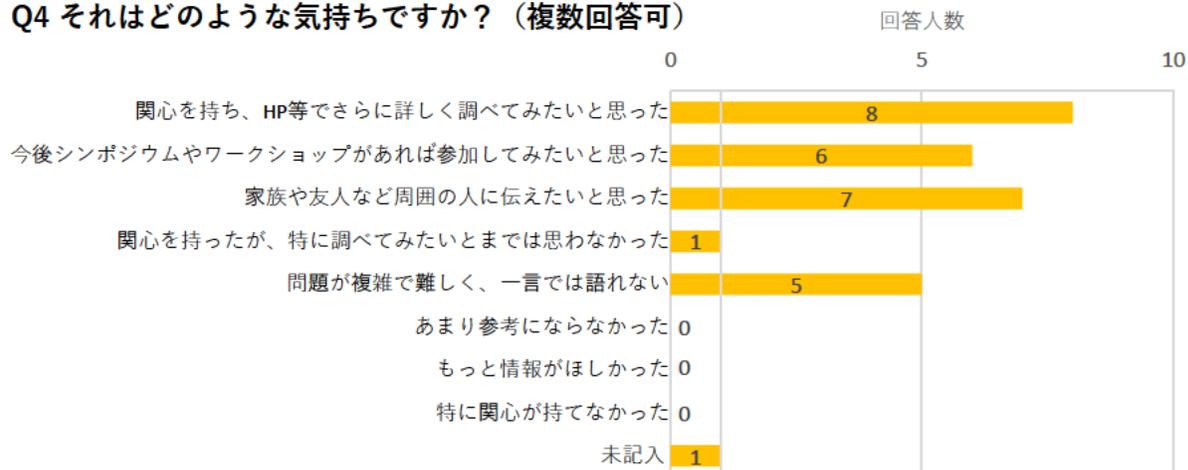
原子力発電環境整備機構（NUMO）に関する認知について



本日の講義を聞いて、ご自身の気持ちの変化



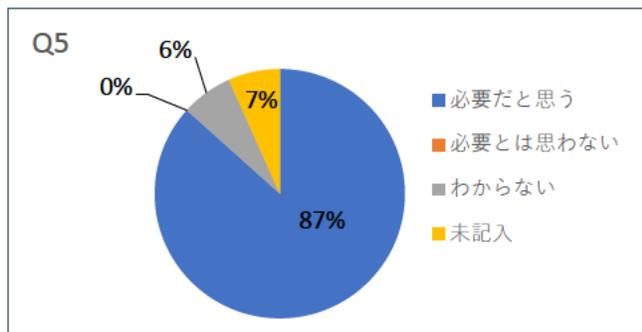
Q4 それほどのような気持ちですか？（複数回答可）



(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

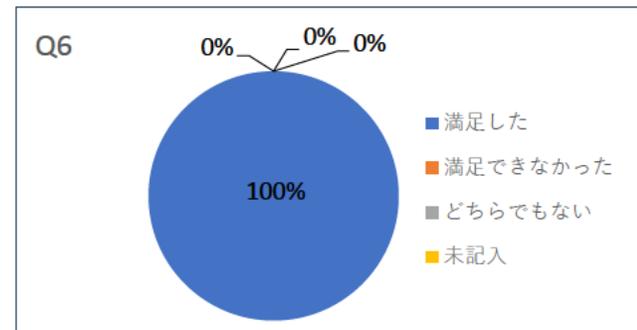
「高レベル放射性廃棄物の地層処分」の必要性について



Q5 そう思う理由

- ・現実的な選択であり、他の処理法のリスクなどを考慮したときに最適だと考えたため
- ・今後CNを進めていく中で原子力は必要不可欠だと考えており、そのためにも地層処分が最も理にかなっているため
- ・処理しなければ危険性の高いものを地上で生き物への影響下が高い場所ではなく、地下深くで処理することで人以外の安全な生活に繋がると思った
- ・稼働する上で処理方法が限られているので、どこかの地域が担わないと仕方ないと思う
- ・安全に配慮しつつ原子力発電を稼働するには地層処分が必要だと思うから
- ・原子力発電を利用する上で先送りができない問題だから

本日の専門家の説明に対する満足度



Q6 講演の中で特に印象に残った説明がありましたらご記載ください。

- ・施設の建設のために、たくさんの時間をかけて慎重に検討していると思った
- ・オーバーパックの材質などはまだ詳しく決まっていないとのことなので材料の研究をしてみたいと思った
- ・ベントナイト実験
- ・ベントナイトが身近なものに使われていることやガラス固化体の持つSv量
- ・厳しい条件下でのシミュレーションを行っていることに感銘を受けた
- ・ベントナイトの実験を通して、初めて触る物体だと思っていたが身近の色々な場面で使われていて驚いた
- ・外国では原子力発電の地層処分が確立していること、地層処分はとても技術が高く、本当によく守られていると分かりました
- ・地層処分事業について100年をかける非常に長い時間スパンで取り組む課題であること

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

● 自由回答

Q7 その他、ご意見・ご要望がございましたらご記載ください。

- ・より深く、より広く周知が必要な課題、事業だと考えているため今後関心を深めていきたいと思う
- ・リスクが小さくなるよう努めている皆様に対して、国民への理解が深まることを願っております
- ・非常にわかりやすいご説明ありがとうございました。ガラス固化体の地層処分における多重バリアの有効性についてよく理解できたが、具体的に岩盤中に設置する際の具体的な技術的検討、設置姿勢、設置間隔（放熱量や再臨界のリスク）など、これからの検討すべき課題として残されているように思いました。高レベル放射性廃棄物の地層処分の先進事例の研究などについても紹介いただくとより良いと思いました
- ・どう具体的に実行するか、措置とかを知りたかったです、例えばどうやって何キロも深く掘るか

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

② エネ庁職員等による理解促進事業（最終処分の認知向上）

● 成果・課題

	参加者の理解度・実施内容	実施大学
成果	<ul style="list-style-type: none">5大学実施で次世代層246名への理解促進活動を行うことができた。1大学につき、平均約50名の良好な成績を出せた。地層処分については今回、殆ど初めて聞くことや、ニュースで少しと聞いたような知識しかないという初期認知段階の学生が大半を占めるが、地層処分の原理や科学的根拠が分かり、調べてもっとみんなが知らないことだといった意見や、他人事と思わず、興味を持とうと思った等、という意見・感想を引き出したことから、当事業の浸透性と有効性を示している。体験型実験（ベントナイト実験）を取り入れることで、参加者の意識のハードルを下げ、言葉だけの講義では伝えづらい内容でも、地層処分を知らない学生に認知と関心を持たせる有用性を示せた。担当教員への事後ヒアリングから、課題レポート（山口大学）や事前課題（東邦大学）など、思考題材が設定できたことで、授業品質向上に役立ったと好評を得、継続実施の要望を受けた。 併せて実際に資源エネルギー庁担当職員と事業担当者（NUMO）が直接、学生に情報提供する機会はないため、理解促進の向上が得られた、との成果報告を頂いた。	<ul style="list-style-type: none">山口大学慶応義塾大学淑徳大学東邦大学佐賀大学
課題	<ul style="list-style-type: none">初期認知（殆ど地層処分を知らない、および聞いたことはある）段階から、授業外への拡がり（SNS等での認知拡大など）をどう作るか。	

● 次年度にむけて

- 山口大学、慶応義塾大学、東邦大学や淑徳大学など、高等教育機関の講義型授業枠をお借りし、エネ庁職員等が理解促進を直接、リアル対面形式で実施することで、初期認知（殆ど地層処分を知らない、および聞いたことはある）段階の次世代層への確かな情報提供（拡大・浸透）を図ることができたため、当開催実績をモデルとして、地域の偏りをなくすために、新たな開催大学を開拓し、当事業の実施開催数増大を図る。
- 次世代層への理解促進に当たっては、エネ庁職員等が対面形式で直接情報提供及び質疑応答を実施することがより効果的である。また、自分事と感じさせるため、体験実験（ベントナイト実験など）やデモンストレーション（ガラス固化体模型の展示など）を組み込んだ構成をご提案する。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

③ 地域での次世代層向け理解活動の企画の実施(最終処分の理解促進)

● 目的

- ・最終処分については、国民・地域の理解をより深めることが求められていることから、福岡と名古屋において次世代層を含めた一般向けに、様々な意見を交わすための企画を開催する。
- ・開催に際しては、文献調査実施地域で行われている「対話の場」と同様に、中立な立場のファシリテーターを活用し、中庸な議論になることに留意する。またエネルギー問題に興味のない方も参加しやすい工夫を行い、最終処分問題を認知いただくとともに理解促進を図る。

● 企画概要

- ・エネルギー問題等に興味のない一般市民を意見交換の場に連れ出すには、参加者が興味がある内容や、誘いやすい内容のセミナー等と最終処分の意見交換とをタイアップさせた行事が得策であると、令和2年度同事業の女性リーダー交流会で提案があり、同年の企画検討分科会でWeb実施・効果検証した「エニアグラムセミナー」が効果的であったことから、今回同内容を参考に対面で開催する。
- ・エネルギー情報（最終処分問題）は、セミナーの中で活用する「時事ネタ」として紹介・共有し、最終処分事業に対する意見交換を実施した。
- ・ファシリテーターは、令和5年度同事業のファシリテーター交流会参加者に、実践の場として依頼する。
- ・チラシには、セミナーのWSの「時事ネタ」として、資源エネルギーからエネルギー問題の情報提供がある旨を示し、誤解がないように図った。

● 実施概要

● 開催日時・場所・参加者

(1) 福岡

日 時：令和5年11月25日(土)13時～16時
場 所：株式会社リファレンス はかた近代ビル
参加者：一般参加者10名、ファシリテーター3名

(2) 名古屋

日 時：令和6年1月27日(土)13時～16時
場 所：名古屋スカイルーム
参加者：一般参加者12名、ファシリテーター4名

● 参加対象者

対象者：次世代層、一般市民

● 行事内容

行事名：「エニアグラムセミナー」

講 師：日本エニアグラム学会 認定ファシリテーター
電源地域振興センター 河田 朱実

◀ 時事ネタ紹介 ▶

内容：「我が国のエネルギーをめぐる状況について」

講師：経済産業省 資源エネルギー庁 放射性廃棄物対策課
課長補佐 丹 貴義

● 集客方法

チラシおよび口コミによるPRを実施した。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

③ 地域での次世代層向け理解活動の企画の実施(最終処分の理解促進)

● 目的

- ・最終処分については、国民・地域の理解をより深めることが求められていることから、福岡と名古屋において次世代層を含めた一般向けに、様々な意見を交わすための企画を開催する。
- ・開催に際しては、文献調査実施地域で行われている「対話の場」と同様に、中立な立場のファシリテーターを活用し、中庸な議論になることに留意する。またエネルギー問題に興味のない方も参加しやすい工夫を行い、最終処分問題を認知いただくとともに理解促進を図る。

● 企画概要

- ・エネルギー問題等に興味のない一般市民を意見交換の場に連れ出すには、参加者が興味がある内容や、誘いやすい内容のセミナー等と最終処分の意見交換とをタイアップさせた行事が得策であると、令和2年度同事業の女性リーダー交流会で提案があり、同年の企画検討分科会でWeb実施・効果検証した「エニアグラムセミナー」が効果的であったことから、今回同内容を参考に対面で開催する。
- ・エネルギー情報（最終処分問題）は、セミナーの中で活用する「時事ネタ」として紹介・共有し、最終処分事業に対する意見交換を実施した。
- ・ファシリテーターは、令和5年度同事業のファシリテーター交流会参加者に、実践の場として依頼する。
- ・チラシには、セミナーのWSの「時事ネタ」として、資源エネルギーからエネルギー問題の情報提供がある旨を示し、誤解がないように図った。

● 実施概要

● 開催日時・場所・参加者

(1)福岡

日 時：令和5年11月25日(土)13時～16時
場 所：株式会社リファレンス はかた近代ビル
参加者：一般参加者10名、ファシリテーター3名

(2)名古屋

日 時：令和6年1月27日(土)13時～16時
場 所：名古屋スカイルーム
参加者：一般参加者12名、ファシリテーター4名

● 参加対象者

対象者：次世代層、一般市民

● 行事内容

行事名：「エニアグラムセミナー」

講 師：日本エニアグラム学会 認定ファシリテーター
電源地域振興センター 河田 朱実

≪時事ネタ紹介≫

内容：「我が国のエネルギーをめぐる状況について」

講師：経済産業省 資源エネルギー庁 放射性廃棄物対策課
課長補佐 丹 貴義

● 集客方法

チラシおよび口コミによるPRを実施した。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

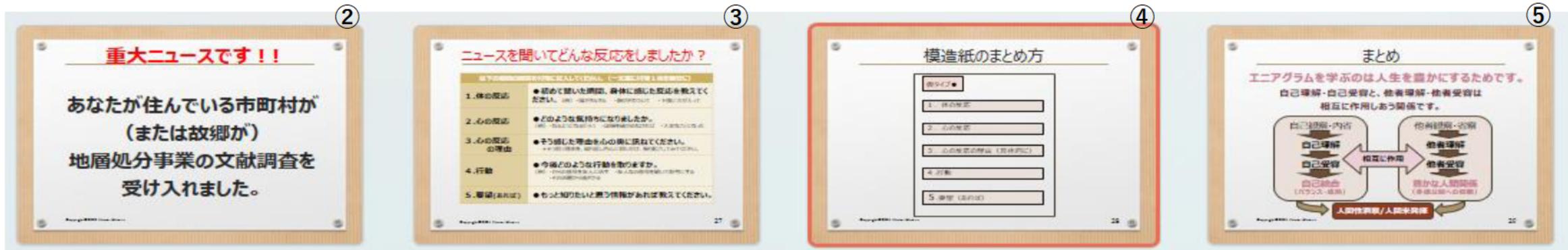
③ 地域での次世代層向け理解活動の企画の実施(最終処分の理解促進)

●実施内容：エニアグラムセミナーの中で、最終処分問題を活用したWSを実施し理解促進を図った。

①WSの前提となる時事ネタを提供（我が国のエネルギーを巡る現状について）



②問題提起⇒重大ニュースです。「あなたが住んでいる市町村が（または故郷が）地層処分事業の文献調査を受け入れました」



③あなたの反応は 体や心の反応・反応の理由・今後取る行動・要望（得たい情報）について同じタイプ間で意見交換し⇒模造紙にまとめる

④タイプごとに全体発表

⑤まとめ⇒他者の考えがある事を理解し客観的に受け入れられると、人間関係が豊かになります。
 (効果：賛成or反対等の意見の違いで対立しないので、町は2等分されないようになる)

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

③ 地域での次世代層向け理解活動の企画の実施(最終処分の理解促進)

●問題提起：「あなたが住んでいる市町村が（または故郷が）地層処分事業の文献調査を受け入れました」

⇒ ①主な反応（反応の理由） ②今後取る行動 ③要望（得たい情報）

①主な反応（反応の理由）

- ・調査だからまあいいか。（調査段階だから自分にまだ影響はないと思う）
- ・町の魅力が悪化する。（自分への不利益はないのか）
- ・この後何が起こるのかな。（次に何をすべきか、知りたい）
- ・フェイクニュースかも。（最近多いから）
- ・放射性物質はいやだな。（将来処分地になるの）
- ・漠然とした不安。（放射能汚染、地震、補償）
- ・どうしてこの場所なのか。（場所は他にもある）（誰が決めたの）
- ・もっと詳しく話を確かめたいと思った。（原子力のことを知らないから）
- ・ようやく手をあげたんだ。やった20億。（働く場が増え豊かな町になる）
- ・社会に必要なこと。（受け入れられないなら立ち去れば良い）
- ・本当に受け入れる気あるのかな。（市長が変わったらどうなる）
- ・電力会社は他人事すぎる。（発生責任がある）

②今後取る行動

- ・情報収集、周囲の人の反応を見る。
- ・よくわからないので、まずはセミナー等に参加してみる。
- ・アンテナを高くして興味を持ってみる。
- ・ニュース報道や、政治家と行政の発言を聞く。
- ・メリット、デメリット、リスクを聞きたい。
- ・安全、安心の担保は何か追求する。
- ・他国の情報開示を依頼。
- ・市役所にパブリックコメントを依頼。
- ・地層の具体的な資料を求める。
- ・国側、事業者側でない中立人の勉強会を開く。
- ・民主主義なので、賛成か反対か、出ていくという選択肢もある。
- ・理解できない人に説明する。（キッチンミーティングとか）
- ・反対運動に参加するか、陰で応援する。

③要望（得たい情報）

- ・地域の情報など具体的な情報が知りたい。
- ・決定した理由を聞きたい。
- ・将来の事、住む人への影響を知らせてほしい。
- ・TVでは報道されない非公開情報や、公表されていない真の安全性の情報等について、忖度ない話を聞ける場が欲しい。
- ・本音を言ってくれる国側、事業者側の人を紹介してほしい。
- ・反対意見を聞きたい。
- ・地層処分しないデメリットを子供にも分かるように伝えてほしい。
- ・既に文献調査に手を挙げた、もしくは、手を挙げそうな自治体の情報が知りたい。
- ・地層処分ではなく、技術革新での解決を求める。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

③ 地域での次世代層向け理解活動の企画の実施(最終処分の理解促進)

●意見・感想

- ・文献調査受入れに関する自分の意見について、何故そう思ったのかを探ることで今後の行動を考えるきっかけになったし、自分事として向き合える時間になったように思う。
- ・一般的に普及させるには、教育に取りいえるのが良いといった意見は従来からあったが、採用されるまでにはかなりの時間が必要である。理科や社会ではなく、国語の教科書に入れると掘り下げて考えるので、背景なども一緒に理解できるのではないか。

●活動成果と課題

	イベント実施・運営	広報
成果	<ul style="list-style-type: none">・ファシリテーターにとって、地層処分を無テーマとした場を活性化させる体験ができた。・参加を希望するファシリテーターと、事前にWebにて行事の概要説明・意見交換を実施するとともに、開催日の開始時間前にリハーサルを実施したため、問題なく進行できた。	<ul style="list-style-type: none">・ワークショップの時事ネタとして、地層処分事業をメインとしたエネルギー問題を説明したので、真剣に聴いてもらえた。また、問題提起に対して自分の本心を探ることを依頼したので、文献調査受け入れに対する本音の意見が聞けた。
課題	<ul style="list-style-type: none">・地方開催の行事で口コミのみのPRで実施したため、集客に苦労した。・ファシリテーターの役目は場の活性化に努めることだが、処分事業について知識があるので、参加者との意見交換になってしまう場合があった。・資源エネルギー庁が主催だと堅い印象を与えることを危惧して、あえてチラシに記載しなかったが、逆に行事への不信感を感じる方がいたので、検討が必要。	<ul style="list-style-type: none">・エニアグラムと地層処分の説明とのコラボは、参加の垣根を下げたり、他者理解や本音を聞ける点で有効であったが、国の行事としてはカジュアルに取られる懸念がある。文献調査受入れ時に、地域の分断を避ける目的で精神面へのアプローチにエニアグラム等は有効と考えられるので、主催者を変えての実施検討も一案ではないか。

●次年度にむけて

- ・今年度の現場経験を一步進める方法として、北海道の対話の場のテーブルファシリテーター等、地層処分をテーマとした現場で活躍中のメンバーと意見交換する場などがあると経験談を聞けるので、不安払拭や場の活性化について有効事例を聞けるので効果的と思われる。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

④最終処分理解促進のためのシンポジウムの実施

(1) 実施概要

本事業の効果的な理解促進を図るための企画（シンポジウム）を実施した。

イベント等を実施する際に、実施に必要な人員、配布資料の印刷、物品・機材、運営マニュアル等を整備し実施した。なお実施にあたっては、事前告知、事前広告、事後採録を行い、広く国民とりわけ次世代層に向けた情報発信を行った。

●実施概要

開催期間	: 2024年2月21日（水）
実施会場	: ウィンクあいち（愛知県産業労働センター） 大ホール （愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38 2F）
主催	: 経済産業省 資源エネルギー庁
開催名	: 大切なエネルギーと紡ぐ私たちの未来 ～どこかの誰かだけの問題じゃない地層処分～
事務局	: 一般財団法人 電源地域振興センター 株式会社読売エージェンシー(再委託先)

●実施内容

地層処分に関するシンポジウム

【Youtubeライブ配信】

●シンポジウム (https://www.youtube.com/watch?v=_Z-wAqTIN9Q)

<参加者>

シンポジウム（207名）

■来場者：62名（うち当日受付2名） ■視聴数145名（MAX値）

<募集方法>

事前応募による一般抽選受付・招待関係者 [<https://jisedaichisou2024.go.jp>]

<受付配布物>

「ふくしまハイスクールアカデミー2023」副読本・アンケート・ペグシル

・アンケート

<紙面掲載>

読売新聞 事前告知：2024年1月23日（火）～2月12日（月）

読売新聞 採録掲載：2024年3月16日（土）

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

④最終処分理解促進のためのシンポジウムの実施

(1) 実施概要

(1) 実施概要

●実施内容（タイムテーブル）

ウインクあいち（愛知県産業労働センター）大ホール
 （愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38 2F）

<大ホール>

実績		計画		内容	登壇者
Time	Lap	Time	Lap		
14:00	01'00"	14:00	01'00"	司会挨拶	司会：平山 俊博
14:01	05'00"	14:01	04'00"	開会の挨拶 (ビデオメッセージ)	経済産業大臣政務官 石井 拓
14:06	19'00"	14:05	15'00"	地層処分の概要	経済産業省 資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 放射性廃棄物対策課長 下島 友敬
14:25	80'00"	14:20	80'00"	パネルディスカッション 「～将来にわたって地層処分に 関心を育せてもらうには～」	<コーディネーター> ・石川 和男 様 (政策アナリスト) <パネラー> ・宮野 裕人 様 (澤田塾大学総合政策学部教授) ・辻 豊少子 様 (株式会社arca代表取締役クリエイティブディレクター) ・大宮 幸雄 様 (NPO法人あいちの未来を担う理事会) ・山内 ともな 様 (モデル・タレント)
15:45	15'00"	15:40	20'00"	休憩 (ステージ転換)	ステージ転換
16:00	00'00"	16:00	00'00"	◆報告ビデオ放映 (5分)	
16:06	19'00"	16:06	18'00"	◆高校生による報告発表 (15分) ※1名3分想定	
				トークセッション	<高校生登壇者> - 岐阜県立 羽島高校 : 伊藤 聡太 (いとう そうた) さん - 岐阜県立 羽島高校 : 大田 隼 (おおた はやし) さん - 岐阜県立 羽島高校 : 大井 紀真 (おおい のりま) さん - 岐阜県立 羽島高校 : 岡田 唯衣 (おかだ ゆい) さん - 北海道 寿都高校 : 中山 遼空 (なかせ りく) さん
16:25	38'00"	16:24	37'00"	「高校生から見た地層処分～ス ウェーデン取材報告～」	<MC> ・石川 和男 様 (政策アナリスト) <ゲスト> ・山内 ともな 様 (モデル・タレント) <高校生登壇者> - 岐阜県立 羽島高校 : 伊藤 聡太 (いとう そうた) さん - 岐阜県立 羽島高校 : 大田 隼 (おおた はやし) さん - 岐阜県立 羽島高校 : 大井 紀真 (おおい のりま) さん - 岐阜県立 羽島高校 : 岡田 唯衣 (おかだ ゆい) さん - 北海道 寿都高校 : 中山 遼空 (なかせ りく) さん
17:03		17:01		終了～送別	

<開会挨拶>



<地層処分の概要①>



<地層処分の概要②>



<パネルディスカッション①>



<パネルディスカッション②>



<パネルディスカッション③>



<トークセッション①>



<トークセッション②>



<トークセッション③>



(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

④最終処分理解促進のためのシンポジウムの実施

(1) 実施概要

● 受付集計結果

■参加当選メール送信数：126名　うち15名欠席連絡あり
※申し込み数138名から重複応募12名を除く
※送信エラー3組/2名（携帯番号へショートメッセージを送信）

■受付対象者：111名
※開始時刻までの欠席連絡数：15名

<受付数>
・60名

<当日受付>
・2名

<来場者数>
・合計62名

【Youtubeライブ配信】

・ライブ視聴者数

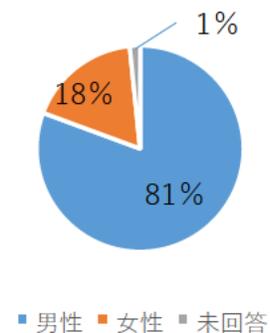
【2月21日 本番終了時カウント】
<Youtube配信 視聴者数>
MAX値 145

使用ドメイン jisedaichisou2024.go.jp

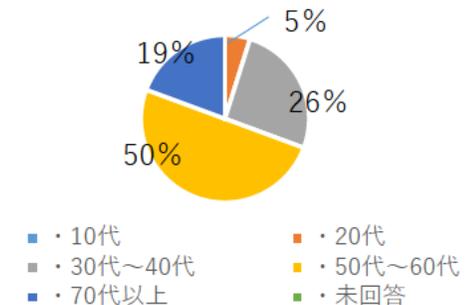
<来場者データ>	
性別：	
・男性	50名
・女性	11名
・未回答	1名

年代：	
・10代	0名
・20代	3名
・30代～40代	16名
・50代～60代	31名
・70代以上	12名
・未回答	0名

来場データ



年代別



(3) 次世代層 (主に大学生・大学院生) 向け理解促進事業

④ 最終処分理解促進のためのシンポジウムの実施

(2) 採録記事【事前広報実績 (新聞広告・チラシ)】

<中日新聞全域配布サービス (2024年2月9日: A4両面カラー・10万部配布)>

【参加申込受付用】 <読売新聞全国版朝夕刊月極掲載 (2024年1月23日~2月12日)>

【A4サイズ両面カラー・情報拡散用チラシ】

全5段モノコ

読売新聞全国版朝夕刊月極掲載
「みみんで考えるシンポジウム」
大切なエネルギーと紡ぐ
私たちの未来
～どこかの誰かだけの問題じゃない地層処分～
2024年 2月21日(水) ウィンクあいち 2F大ホール
14:00~17:00 (11:25開場/14:00開演) (※朝刊版掲載日:1月23日~2月12日)

半5段モノコ

読売新聞全国版朝夕刊月極掲載
大切なエネルギーと紡ぐ
私たちの未来
～どこかの誰かだけの問題じゃない地層処分～
2024年 2月21日(水) ウィンクあいち 2F大ホール
14:00~17:00 (11:25開場/14:00開演) (※朝刊版掲載日:1月23日~2月12日)

全2段モノコ

読売新聞全国版朝夕刊月極掲載
大切なエネルギーと紡ぐ
私たちの未来
～どこかの誰かだけの問題じゃない地層処分～
2024年 2月21日(水) ウィンクあいち 2F大ホール
14:00~17:00 (11:25開場/14:00開演) (※朝刊版掲載日:1月23日~2月12日)

【月極掲載総段数】
293段

<中日新聞掲載 (朝刊2024年1月26日/夕刊2024年2月1日、2月10日)>

読売新聞全国版朝夕刊月極掲載
大切なエネルギーと紡ぐ
私たちの未来
～どこかの誰かだけの問題じゃない地層処分～
2024年 2月21日(水) ウィンクあいち 2F大ホール
14:00~17:00 (11:25開場/14:00開演) (※朝刊版掲載日:1月23日~2月12日)

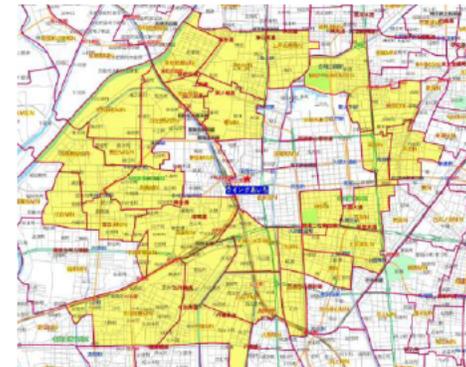
読売新聞全国版朝夕刊月極掲載
大切なエネルギーと紡ぐ
私たちの未来
～どこかの誰かだけの問題じゃない地層処分～
2024年 2月21日(水) ウィンクあいち 2F大ホール
14:00~17:00 (11:25開場/14:00開演) (※朝刊版掲載日:1月23日~2月12日)

Events 2/21(水) 経済産業省
「みみんで考えるシンポジウム」名古屋開催事前申込制
経済産業省資源エネルギー庁ではシンポジウム「大切なエネルギーと紡ぐ私たちの未来～どこかの誰かだけの問題じゃない地層処分～」をウィンクあいちにて開催します。将来世代に先送りできない社会問題、高レベル放射性廃棄物の最終処分方法となる地層処分について、著名人によるパネルディスカッションや地層処分先進国スウェーデンを訪問した高校生とのトークセッションを通じ、今、私たちが何ができるか、次世代を担うみなさんとともに考えませんか。パネルディスカッションには石川和男氏、吉野隼人氏、辻堂沙予氏、大空幸星氏、地元名古屋出身タレント山内ともな氏が登壇。申込は右記コード及び下記HPから。
※申込締切: 2/12(撤休)

次世代の未来を考えるシンポジウム2024事務局 <https://jisedai.chiiso2024.go.jp>

<配布地域一覧> 名古屋市内エリアに配布

配布地域	配布枚数	配布日	配布時間	配布場所
名古屋市内	100,000	2月9日	14:00~17:00	各新聞社
愛知県内	50,000	2月9日	14:00~17:00	各新聞社
岐阜県内	20,000	2月9日	14:00~17:00	各新聞社
静岡県内	10,000	2月9日	14:00~17:00	各新聞社
東京都内	5,000	2月9日	14:00~17:00	各新聞社
その他	5,000	2月9日	14:00~17:00	各新聞社



(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

④最終処分理解促進のためのシンポジウムの実施

(2) LINE広告

<LINEディスプレイ広告（静止画）（2023年1月29日～2月12日）>
スクエア（1080×1080） 画像<小> 600×400



【総インプレッション数】4,491,106imp / 【総クリック数】16,273クリック / 【クリック率】0.36%
※シミュレーション比【総インプレッション数】215.6% / 【総クリック数】195.2%

広告名	広告	表示回数	表示単価(CPM)	クリック数	クリック率	クリック単価
スクエア	 <p>【名古屋開催】未来のために、今を知ろう。 経済産業省資源エネルギー庁が主催する「#みんなで考えるシンポジウム」</p>	2,704,726	¥63	0,280	0.33%	¥10
画像（小）	 <p>【名古屋開催】未来のために、今を知ろう。</p>	1,696,380	¥74	6,984	0.41%	¥18

<読売新聞オンラインSPオーバーレイ広告・ROSサムネイルテキスト広告・ROSテキスト広告>
(2024年1月23日～2月12日)

【SPオーバーレイ】				【PC/SP ROSサムネイルテキスト】						
(A)				(A)						
	合計インプレッション	合計クリック数	合計CTR		合計インプレッション	合計クリック数	合計CTR			
	143,298	512	0.36%		1,113,125	55	+0.00%			
(B)				(B)						
	合計インプレッション	合計クリック数	合計CTR		合計インプレッション	合計クリック数	合計CTR			
	351,779	1,436	0.41%		2,186,934	124	0.01%			
合計インプレッション	495,077	合計クリック数	1,948	合計CTR	3,300,059	合計クリック数	179	合計CTR	0.39%	0.01%
【ROSテキスト】				【ROSサムネイルテキスト】						
未来を創造するために、今を知ろう。				未来を創造するために、今を知ろう。						
				合計インプレッション						
				3,300,054						
				合計クリック数						
				160						
				合計CTR						
				+0.00%						

【総インプレッション数】7,095,190imp / 【総クリック数】2,287クリック / 【クリック率】0.03%
(前年度【総インプレッション数】6,493,258imp / 【総クリック数】1,006クリック / 【クリック率】0.02%)
前年度比【総インプレッション数】109.3% / 【総クリック数】227.3%

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

④最終処分理解促進のためのシンポジウムの実施

【事前広報・申し込み用ランディングページ実績】

【専用サイト】



【応募フォーム】※専用サイト一体型

お申し込み

参加お申し込みフォーム
必要事項を入力の上、お申し込みください。

氏名 必須

姓 必須 名
姓 名
姓 名
姓 名
姓 名

氏名 (フリガナ) 必須

セイ 必須 メイ 必須
セイ 必須 メイ 必須
セイ 必須 メイ 必須
セイ 必須 メイ 必須

メールアドレス 必須

test@jisedaichisou2024.go.jp
確認のため再度ご入力ください
test@jisedaichisou2024.go.jp

電話番号 必須

12345678900
文字数 20文字以内 英数字の文字数 0

職業 必須

選択してください

所属 (学校名・会社名) 必須

地層未来株式会社

性別 必須

選択してください

年齢 必須

選択してください

プライバシーポリシー 必須

プライバシーポリシーに同意します

申し込む

<参加者募集方法（一般・関係者）>

- 開催告知用のLP（ランディングページ）を制作。
- 申し込み受付フォームも一体化。
- 要注意人物抽出、定員数対応のため、抽選方式を採用。
- 当選者への通知メールを当日の受付にて照合。
※関係者への当選通知メールは不要。（別途受付リストを作成）

使用ドメイン jisedaichisou2024.go.jp

【2月13日 受付終了時カウント】

<申し込み数>

138

※重複応募12名含む

<申し込み者データ>

性別：	・男性	108名
	・女性	28名
	・未回答	2名
年代：	・10代	1名
	・20代	4名
	・30代～40代	21名
	・50代～60代	65名
	・70代以上	47名

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

④最終処分理解促進のためのシンポジウムの実施

(2) 採録記事

【事後広報実績（新聞広告）】

【読売新聞全国版朝刊載（2024年3月16日）】

- 東京本社版・北海道支社版・大阪本社版（共通） ■東京本社版
・掲載面：9面／全38面建て
- 北海道支社版
・掲載面：6面／全32面建て
- 北陸支社版
・掲載面：12面／全32面立て
- 中部支社版
・掲載面：18面／全30面建て
- 大阪本社版
・掲載面：10面／全38面立て
- 西部本社版
・掲載面：22面／全36面立て

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

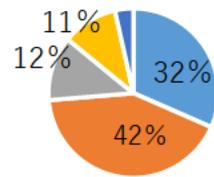
④最終処分理解促進のためのシンポジウムの実施

(3) アンケート集計

■回収数57

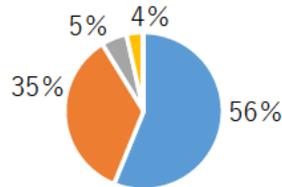
【来場者アンケート集計結果】

Q1「地層処分」について知っていましたか？



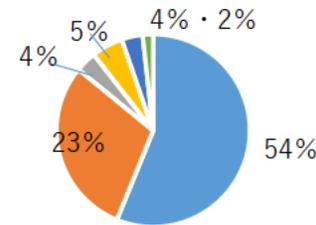
- よく知っていた
- 少し知っていた
- 言葉だけは聞いたことがある
- 初めて聞いた
- 無回答

Q2 本日のシンポジウムについてわかりやすい内容でしたか？



- わかりやすい
- どちらかと言えばわかりやすい
- どちらかと言えばわかりにくい
- わかりにくい
- 無回答

Q3 本日のパネルディスカッションについてどう感じましたか？



- よかった
- どちらかと言えばよかった
- どちらとも言えない
- どちらかと言えばつまらなかった
- つまらなかった
- 無回答

(結果①)

・地層処分への理解が元々ある参加者が、8割を超えており、シンポジウムの内容について、分かりやすいイベントであったとの意見があった。

Q1：「よく知っていた」・「少し知っていた」あわせて、約84%が、知っていると回答。

Q2：「わかりやすい」・「どちらかと言えば」あわせて約90%が、わかりやすいと回答。

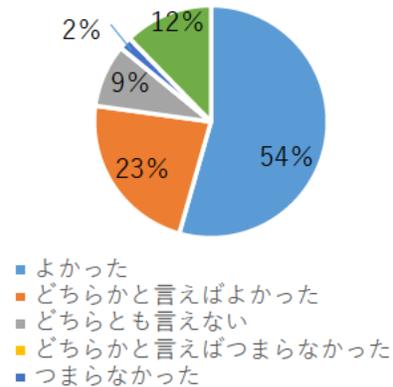
Q3：「よかった」・「どちらかと言えばよかった」あわせて86%、「どちらでもない」4%と回答。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

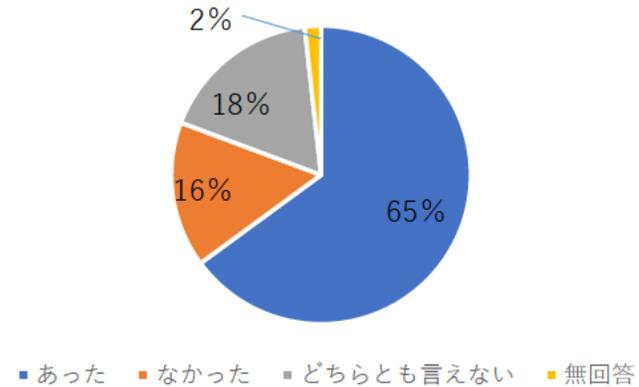
④最終処分理解促進のためのシンポジウムの実施

【来場者アンケート集計結果】

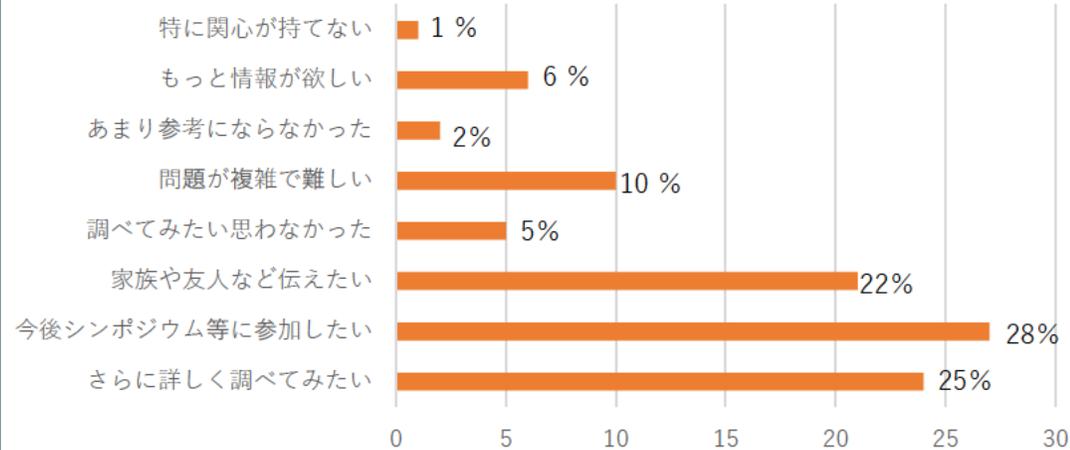
Q4 本日のトークセッションについて
どう感じましたか？



Q5 本日のシンポジウムを聞いてご自身の気
持ちの変化はありましたか？



Q5-1 それはどのような気持ちですか？（複数回答）



(結果②)

Q4：「よかった」約54%、「どちらかと言えば良かった」23%と回答。

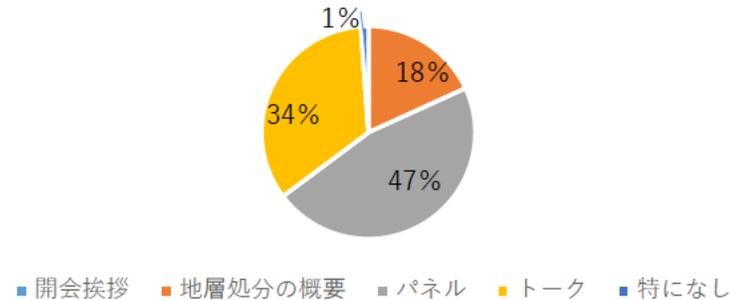
Q5：「変化はあった」約65%、「変化なかった」約16%、「どちらでもない」約18%

Q5-1：どのような気持ちかについては、「家族や友人に伝えたい」「今後参加してみたい」「詳しく調べてみたい」の好意的な意見が、約85%を占めた。

(3) 次世代層（主に大学生・大学院生）向け理解促進事業

④最終処分理解促進のためのシンポジウムの実施

Q6 本日のプログラムで印象に残ったものはありましたか？（複数回答）



●アンケート集計結果

(総括)

- ・地層処分への理解が元々ある参加者が、8割を超えており、シンポジウムの内容について、分かりやすいイベントであったとの意見があった。
- ・今後シンポジウム等に参加したい、周囲に伝えたい、さらに詳しく調べたい層が、約85%。関心の高さがうかがえる意見があった。
- ・自由記述からは、継続してシンポジウムを実施してはどうか、聞きごたえのある場であったとの意見が見受けられた。
- ・次世代に向けた企画について、10代20代の参加層が、全体の約25%程度であり、その中で「考えさせられる」、「若い世代の議論には、親しみを持てた」との意見もあり、次世代層の参加者には、少なからず、関心を持つきっかけとなった。

(御意見ご感想 自由記述からの抜粋)

- ・パネラーである辻さん・大空さん・山内さんの同世代であるが、難しい問題にも関わらず三者とも意見は参考になるものばかりであった。
- ・シンポジウム回数がもっと増えた方が良いのかと考えております。
- ・若い人へのアプローチ方法の話が長かったが、大切なのは年長者だと思う。
- ・とても有意義な会合でした。福島・六ヶ所村、福井の学生の皆さんの取材レポートが素晴らしかったです。
- ・専門用語が時々出たが、都度説明が欲しかった。
- ・(地層処分の問題について) 問題の捉え方・視点・軸をうまくとらえていかなければ、進んでいけないものと思った。

(4) 文献調査実施自治体と他の原発立地自治体の若年層交流事業

●目的

原子力関係の立地自治体に在住する若年層同士で交流や研究発表等を行うことで、地層処分事業をはじめとする原子力の諸課題について若年層の理解促進につなげるとともに、将来のまちづくりの観点から原子力とどのように向き合っていくか等について考えるきっかけを創っていくことを目的として事業を実施した。

●実施概要

◆実施体制

主催 : 経済産業省資源エネルギー庁 放射性廃棄物対策課

主体 : NPO法人ハッピーロードネット

参加者 : 北海道寿都高校生2名、青森県立六ヶ所高校2名
福島県立相馬高校1名、福島県立原町高校2名
福島県立磐城高校1名、福島県立磐城桜が丘高校2名
茨城県立水戸第二高校1名、福井南高校2名 計13名

◆国内研修

開催期間 : 2023(令和5)年8月2日(水)～4日(金)

開催内容 : 日本原燃PRセンター、サイクル施設の視察
廃炉資料館・東電福島第一原発・双葉町の視察

◆海外研修

開催期間 : 2023(令和5)年8月6日(日)～12日(土)

開催内容 : SKB社施設(キャニスター研究所、エスポ岩盤研究所)
ヴァッテンフォール高校との交流、地元住民との交流

◆事後報告会

開催日時 : 2023(令和5)年9月16日(土)～18日(月・祝)

開催内容 : 国内海外の研修・視察の結果をとりまとめ、報告会用資料作成
福島県内をはじめ、関係者をお招きした報告会を実施

●研修行程

8月2日(水) 日本原燃PRセンター見学、六ヶ所村内見学、見学結果の振り返り
六ヶ所村役場からの情報提供、日本原燃増田社長からの講演

8月3日(木) 低レベル・高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センターの見学
使用済み燃料受け入れ貯蔵施設の見学
東京電力 小野副社長による講演

8月4日(金) 東京電力福島第一原子力発電所見学、5号機使用済み燃料プール、
乾式キャスク保管場所等

8月5日(土) 羽田空港発⇒コペンハーゲン空港経由⇒アーランダ空港(スウェーデン)

8月6日(日) ホテル会議室にて交流時のプレゼン作成(英文)

①自己紹介・日本のエネルギー政策について

②エネルギーに関する日本とスウェーデンの違いについて

③高レベル放射性廃棄物について

8月7日(月) エスポ岩盤研究所視察、交流時のプレゼン作成(英文)

8月8日(火) キャニスター研究所視察、オスカーシャム市長・住民との交流

8月9日(水) フォルスマルク最終処分地の見学、エストハンマル市長。自治体職員交流
駐在日本大使との交流

8月10日(木) ヴァッテンフォール高校生との交流・プレゼン

8月11日(金) ヴァッテンフォール社見学、プレゼン

8月12日(土) ホテルにて海外視察の振り返り、報告会準備

8月13日(日) アーランダ空港発⇒ワルシャワ空港経由⇒成田空港着、解散

(4) 文献調査実施自治体と他の原発立地自治体の若年層交流事業

- 地層処分をはじめとする原子力の諸課題を抱える、福島県浜通り、青森県六ヶ所村、北海道寿都町、福井県、茨城県の高中生13名が集まり、将来のまちづくりの観点から、それらの課題とどのように向き合っていくか等について考えるキッカケを提供する国内・海外研修を実施。
- 研修では、国内の原子力関連施設の視察及び情報提供により、日本の最終処分に関する知識を学び、海外の先進地（スウェーデン）にて先行する技術や住民との交流を通じて、今後日本がどのようにすべきか検討した。

< 高校生からの成果報告 >

● 日本とスウェーデンの違いについて

- 理解を得るための施設見学は非常に有効だと思うが、日本は制限が多いのに対し、スウェーデンは常にオープンになっており、より多くの方に来ていただける体制があった。施設見学をもっと多くの人にしてもらえるような体制が望ましい。
- スウェーデンでは、小さな頃からエネルギー教育に熱心である。また、対話についても小さな対話からはじめ、徐々に専門的な対話にした経緯があったので、日本も初めは専門用語をなくし、徐々に専門的な話をしていくことが求められる。

● 日本において高レベル放射性廃棄物の最終処分地選定を進めるためには

- 地域の首長、住民、NUMOがそれぞれ信頼関係で結ばれる必要がある。
- 正確かつ透明性の高い情報が必要になるので、国やNUMOは科学的根拠に基づく情報発信をもっとすべき。
- 異なる意見の人と話し意見を共有することで対話が進み自分事化できると思う。そのような場をもっと設けるべき。



日本原燃PRセンター見学



キャニスター研究所見学



エスポ岩盤研究所見学



ヴァッテンフォール高校交流

(4) 文献調査実施自治体と他の原発立地自治体の若年層交流事業

●本事業の推進にあたっては、新聞（福島民報、福島民友）が同行し情報発信を行った。また、副読本を制作し関係各所へ配布した。

●新聞での情報発信（合計36記事）

福島民報

6月19日
核のごみ最終処分考える 事前研修
8月3日
六ヶ所村で核燃料の再処理学ぶ
8月4日
高校生「実りある研修に」
8月6日
福島第一原発を視察
スウェーデンに出発

8月7日
スウェーデン到着
8月8日
事前学習励む
相双・いわき版 太田諒・大井紀葉
8月9日
核のごみ最終処分見学
相双・いわき版 大川夏輝・鹿山成美
8月10日
相双・いわき版 伊東聡太・岡田瑠衣
核ごみ最終処分予定地視察
8月11日
いわき・相双版 エネルギー事情に理解
核のごみ 共に考えよう
8月12日
いわき・相双版 現地高校生と絆強く
高校生の活動サポート
8月13日
地層処分の研究を理解
対話、信頼醸成が鍵
8月18日
対話積み重ね信頼
8月25日
核ごみ処分見識深める

9月20日
正確な情報発信決意
9月21日
研究施設PR工夫を
9月22日
信頼勝ち取る対話を
9月23日
大人も課題に向き合っ

福島民友

8月4日
核ごみ貯蔵施設見学（六ヶ所村）
8月5日
第一原発や廃炉資料館見学
8月7日
スウェーデンで発表練習
8月9日
スウェーデン最終処分意見交換対話と
透明性信頼に
8月10日
最終処分予定地を見学
8月11日
高校生、原発への考え共有
8月12日
欧州の脱炭素学ぶ
8月15日
参加高校生帰国
住民の信頼長い道のり
8月16日
「正しい知識」教育に力を
8月17日
意見交換 交流深める
8月28日
スウェーデンで核ごみ処分学ぶ

●副読本



(4) 文献調査実施自治体と他の原発立地自治体の若年層交流事業

●実施内容・評価・課題

	若年層への理解促進	広報について
成果	<ul style="list-style-type: none">福島県浜通りから6名、北海道寿都町から2名、青森県六ヶ所村から2名、福井県から2名、茨城県東海村から1名の計13名名が集まり、原子力関連施設に住む高校生が互いの意見の違いに気づき、放射性廃棄物の処分と言う課題を認識し、自分事として課題に向き合うようになった。国内の原子力関連施設の見学、海外の原子力関連施設の見学を行うことで、日本の良い部分、海外の良い部分を分析し、様々な切り口から課題を知ることができた。合宿形式で学び合うことで、集中して議論が行う環境を整えたことで、課題に対する理解が進んだ。	<ul style="list-style-type: none">福島民報、福島民友が同行することで、日々メディアを使った情報発信を実施した。(新聞記事：12件以上)事後報告会には関係者約120名が参加し、高校生の視点から日本とスウェーデンの取り組みの違いや、そこから今後求められる対応の提言を行った。その様子についてもマスコミでの報道がされたことで、より多くの方に活動成果を発信できた。活動の成果をまとめた副読本を作成し、関係各所(約20ヵ所程度)へ配布し、課題認知の更なる広がりを図った。また、2月21日に名古屋で実施されたシンポジウムにて活動報告を行うことで情報の拡散を図った。
課題	<ul style="list-style-type: none">原子力関連施設の立地地域に住む高校生の実施となっているので、電気の消費地である高校生を巻き込み、互いの意見の違いを理解し、より深い議論を展開していくことが求められる。より正確な情報提供が求められる。日本国内の対話活動や施設運営に関する情報が少ないため、知識が乏しい状況を作ってしまった。	<ul style="list-style-type: none">新聞記事や副読本だけでは、情報の広がり限界があるため、高校生が良く見る媒体(X、Instagram等)で発信が求められる。福島県内の報道機関が随行することで、福島県内での情報発信はよくできているが、それ以外の地域での波及効果がない。

●次年度にむけて

- 電気の産地と消費地の高校生による関心や考え方の違いを学び、未来に向けて自分たちは何ができるのか、どうしていくのが望ましいのかを検討する必要がある。
- 地層処分事業に関する多様な意見がある中で、推進側の意見のみならず、どのような慎重な意見があるのかを理解したうえで、自分事化し、どのようなアクションに繋げていくのか、といった議論を行っていくことが求められる。
- 国内の施設見学と合わせて、日本のエネルギー政策や地層処分事業に関する対話活動など、時間をかけて詳細に情報提供を行うことが求められる。
- 活動報告を参加した高校だけではなく、高校生が高校生に伝える出前授業のような形で情報を発信していくことで、同世代の理解を図る事が求められる。